

令和8年度

北海道開発局事業概要
(事業別)

令和8年4月

国土交通省北海道開発局

< 目 次 >

1. 治水関係事業	・ ・ ・ P 1
2. 道路事業	・ ・ ・ P 2 1
3. 港湾整備事業	・ ・ ・ P 4 3
4. 空港整備事業	・ ・ ・ P 4 8
5. 農業農村整備事業	・ ・ ・ P 5 1
6. 水産基盤整備事業	・ ・ ・ P 5 5
7. 官庁営繕事業	・ ・ ・ P 5 7
(参考) アイヌ文化の振興	・ ・ ・ P 5 9

1. 治水関係事業

1 生産空間を守り、安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくり

(1) 流域のあらゆる関係者が協働して行う「流域治水」の推進

気候変動の影響による災害の頻発化・激甚化に対応するため、河川整備をより一層加速するとともに、河川区域のみならず、集水域や氾濫域も含めて一つの流域として捉え、地域の特性に応じ、ハード・ソフトの両面から「流域治水」を推進するため「北海道開発局流域治水推進室」を設置しています。さらに、「北海道地方における流域治水のあり方検討会」の議論も踏まえ、北海道の生産空間の維持・発展等を可能とする北海道にふさわしい流域治水を流域のあらゆる関係者ととも推進します。



あらゆる関係者が協働して行う「流域治水」

(2) 手稲山地区直轄地すべり対策事業の新規着手

手稲山地区は、北海道の中心都市である札幌市に位置し、山麓には手稲市街地及び重要な交通網（札幌自動車道・国道5号・JR函館本線）が集中しています。

大規模な地すべりが発生すると、手稲市街地への被害に加え、幹線交通が分断され、地域防災や経済活動に甚大な影響を及ぼすことから、地すべり対策事業に着手します。



手稲山地区直轄地すべり対策事業

(3) 北村遊水地整備事業の推進

石狩川流域には道都札幌市等が位置し、北海道の社会、経済の中核となっているほか、流域内の広大な農地は我が国数々の食料供給地です。特に昭和56年8月洪水時には甚大な浸水被害が発生しました。この戦後最大規模の洪水被害を解消するため、北村遊水地等の整備を推進します。



北村遊水地の整備

(4) 千歳川流域の治水対策の推進

千歳川の中下流部には広大な低平地が広がっているため、洪水時に石狩川本川の高い水位の影響を長い区間にわたり長時間受けるなど水害が起きやすい特性を有しており、昭和56年8月上旬洪水は未曾有の大洪水となりました。この戦後最大規模の洪水被害を解消するため、堤防の整備や遊水地群の整備等を推進しており、遊水地群については令和2年度よりすべての遊水地で供用を開始しています。本流域において流域治水を本格的に実践するため、令和5年度に千歳川流域を特定都市河川に指定し、令和6年度には千歳川流域水害対策計画を策定しています。この計画に基づき、河川整備に加え、地域が一体となった流域対策を一層推進します。



千歳川の堤防整備

(5) 大都市地域で壊滅的な被害を防止するための治水対策の推進

札幌市は北海道の社会、経済の中核となっており、その中心部を貫流する豊平川などが氾濫すると市街地に甚大な被害が発生するおそれがあります。このため、豊平川及び厚別川において、河床低下対策や水位を低減させる河道掘削などの治水対策を推進します。



豊平川の河川改修

(6) 空知川南富良野幾寅地区地域連携防災事業の推進

平成28年8月洪水により激甚な災害が発生した南富良野幾寅地区において、再度災害防止対策の整備や地域防災力の向上を目的に、地域と連携した地域連携防災事業を推進します。この事業の一環として水防活動や災害復旧の拠点の機能のほか、地域活性化や賑わいの創出に資する機能を併せ持つMIZBEステーションの整備を、北海道開発局と南富良野町が連携して推進します。



石狩川水系空知川の堤防決壊状況（平成28年8月）

(7) 幾春別川総合開発事業の推進

石狩川流域における洪水被害軽減及び流水の正常な機能の維持、水道用水、工業用水、発電を目的とした幾春別川総合開発事業の早期完成に向けて、事業を推進します。

新桂沢ダムにおいては令和5年度に完成し、三笠ぽんべつダムにおいては令和4年度より本体工事を行っています。



三笠ぽんべつダム（工事状況）

(8) ダム再生の推進

近年頻発する水害に対し、治水安全度の早期向上を図ることを目的に、既存ダムを有効活用するダム再生を推進します。

雨竜川ダム再生事業は、既存の雨竜第1ダム及び雨竜第2ダムにおいて、利水容量のうち一部を洪水調節容量に振り替えるとともに、雨竜第2ダムの嵩上げにより新たに洪水調節容量を確保するもので、令和6年度より雨竜第2ダムの本体工事に着手しています。

糠平ダム再生事業は、既設ダムの事前放流の更なる活用や放流操作の最適化など、既存ストックを最大限活用する検討を推進するため、令和6年度より治水機能増強検討調査に着手しています。



雨竜第2ダム（嵩上げイメージ）



糠平ダム

(9) 火山噴火等に備えた土砂災害対策の推進

火山噴火による大規模な災害が発生するおそれのある樽前山・十勝岳において、火山砂防事業を重点的に推進します。

上流域の土地荒廃が著しく、流出する土砂や流木が下流域に被害を及ぼすおそれのある石狩川上流域・豊平川・札内川において、水系砂防事業を推進します。



樽前山
覚生川砂防堰堤群
おぼっぴ
樽前山覚生川砂防堰堤群の整備

(10) 海岸侵食対策の推進

北海道の物流の要である苫小牧港、重要交通網である国道36号、JR室蘭本線が隣接するとともに、それらに面して住宅が密集している胆振海岸において、海岸侵食対策として人工リーフ整備を推進します。



人工リーフ
胆振海岸（白老工区）人工リーフ

(1 1) 河川管理施設の戦略的な維持管理・更新の推進

河川の維持管理では、一級河川13水系の大臣管理区間における、ダム、堤防、水門・樋門、排水ポンプ等の河川管理施設を良好な状態に保つように維持し、確実な操作を実施するとともに、所要の機能を確保するため、点検・評価結果に基づく補修・更新等を実施します。

また、施設の老朽化の進行や北海道特有の凍害劣化に対応し、トータルコストの縮減や平準化を図るため、長寿命化計画に基づく予防保全を実施するなど、戦略的な維持管理・更新を推進します。



施設の点検（水門ゲート設備）



施設の点検（放流設備）



施設の補修に合わせた
自動開閉式ゲートの導入事例

(1 2) AI/Eye River（アイ・リバー：河川管理の高度化・効率化に向けた取組）

将来の担い手不足やインフラ老朽化の進展等に対応するため、河川管理における生産性向上を目的に、デジタル技術を活用した河川管理等の高度化・効率化を図る取組を先導的に進めています。

河道や高水敷などの河川空間の適切な管理のために行っている河川巡視や、堤防や樋門といった河川管理施設やダムの点検の高度化・効率化を図るため、AIを活用した画像解析等の先進技術による異常の自動検知などの開発・実運用化を進めます。



広大な北海道における河川堤防の除草面積は10,000haを超え、健全な堤防機能の維持のための除草作業には多大な労力と費用が必要です。除草作業の効率化、省力化を目的にGNSS測位技術と河川堤防3Dデータを活用した除草機械の自動化（SMART-Grass）を進めています。

Before		After	
1台につき1人以上を要する運用、出来形を別途計測  <p>遠隔式大型除草機</p>		自動運転により1人で複数台を運用、出来形を自動計測  <p>自動運転機</p>	
現在行われている堤防除草 <ul style="list-style-type: none"> ・出水期前の限られた時期に広範囲の堤防法面を除草するための人員の確保が必要 ・除草の出来形資料作成(刈り高の確認と面積計測)に労力と時間がかかる 		ICTを活用した堤防除草の自動化のイメージ <ul style="list-style-type: none"> ・自動運転の実現による除草作業の省力化 ・自動出来形計測による作業の効率化 	
ハンドガイド 	出来形計測 		

ダムなどの大規模施設の点検では、長い階段の上り下りや多くの機器の確認等が必要です。技術者の減少や高齢化が進む中、少人数でも安全で確実に点検、監視等が行えるよう、ウェアラブルデバイスを用いた遠隔からの作業支援技術を開発しています。

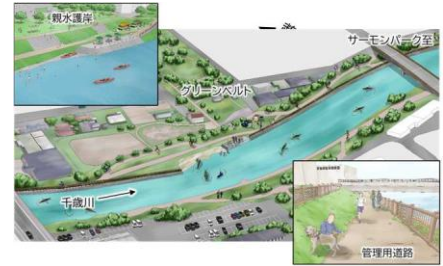
<活用例>

ダム監査廊内の点検 	点検者等が装着するウェアラブルデバイスを通じて遠隔のベテラン技術者が作業を支援
ダム操作の遠隔支援 	  ベテラン技術者

2 生産空間の維持・発展による食料安全保障及び観光立国の一層の強化

(1) まちづくりと一体となった魅力ある水辺空間の創出

まちづくりと連携した水辺整備を行うことで、水辺とまちの活性化に向けたかわまちづくりを全道13箇所において引き続き推進するとともに、千歳川に隣接した観光拠点（サーモンパークやグリーンベルト）において人々が集い賑わいのある河川空間の創出を目指す「千歳市かわまちづくり」、網走湖畔の連続的な水辺整備を行い水辺とまちをつなぐ人の流れや河川空間の賑わいを創出により網走市の地域活性化を図る「網走湖呼人地区かわまちづくり」を新たに推進します。



まちづくりと連携した水辺整備
(千歳市かわまちづくりイメージ図)

(2) 「かわたびほっかいどう」プロジェクトの推進

川の自然環境や景観、水辺の活動、サイクリング環境等、川に関する情報を効果的に発信するとともに、地域と連携して、魅力的な水辺空間の創出、水辺利活用を促進し、北海道らしい活力ある地域づくり・観光振興に貢献する「かわたびほっかいどう」プロジェクトを推進します。



千歳川における水辺利活用の様子
—えべつかわまちフェス2025—

(3) 河川環境の保全・創出の推進

北海道の恵まれた自然環境の保全・創出を図るため、地域住民、NPO、学識経験者、関係機関等が連携・協働し、各種施策を推進します。

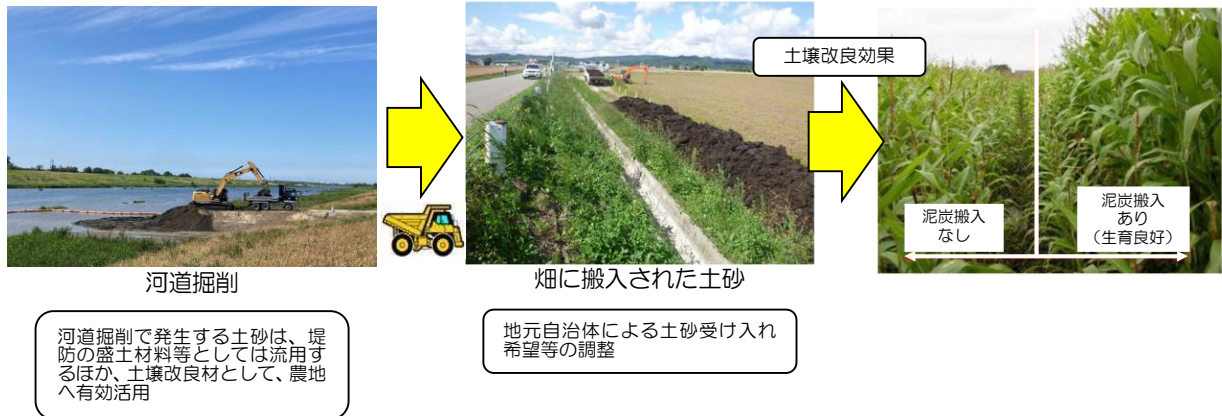
近年、ネイチャーポジティブやグリーンインフラが世界の潮流になっていることも踏まえ、河川を基軸とした生態系ネットワークの形成に向けて、石狩川流域、十勝川流域において自然再生事業を推進します。また、流域の発展に伴い湿原面積が著しく減少している釧路湿原において幌呂地区の湿原再生及び又マオロ地区の旧川復元を引き続き推進するほか、石狩川下流（袋地沼地区）において、旧河道を活用した湿地や樹林地の保全・創出、十勝川において湿地環境等の保全・創出、天塩川下流地区において汽水環境の再生、天塩川中上流地区において魚類等生息環境の改善を引き続き推進します。



釧路湿原自然再生
(又マオロ地区旧川復元)

(4) 公共事業の実施に伴う発生土砂等の有効活用

河川事業で発生する土砂については、堤防等の河川整備に流用するほか、農地の土壌改良材や盤上げ材として有効活用し、北海道の基盤産業である農業の生産性向上を図ります。



農地の土壌改良材への流用例

3 地球温暖化対策を先導するゼロカーボン北海道の実現

河道内の樹木は洪水流下の阻害となることがあるため、計画的に伐採を進めています。伐採された樹木については、民間企業と連携・協力して、チップ状に砕いてバイオマス発電への利用や、加工して家畜の餌にするなどの利用が始まっています。樹木管理費用の縮減と循環資源の利用システムの構築・活用を推進します。

堤防除草により毎年発生する刈草は、地域で家畜の敷藁に使用するなどの利活用を進めるとともに、バイオガス資源として提供し、除草費用の縮減と循環型の地域づくりを推進します。また、新たに民間企業などと連携・協力して、北海道の緩傾斜堤防を利用する公募除草の取組も進めます。

ダム貯水池で集積した流木については、一般の方への無料配布や、チップ化による園路整備等、資源の有効利用に取り組みます。

再生可能エネルギーの導入拡大のため、発電の目的を備えた多目的ダムで水力発電を実施するとともに、新桂沢ダムでは河川環境を維持するための放流水を活用し、河川管理者と発電事業者が連携して新たな小水力発電施設の導入を推進します。



河川内の樹木は、民間での木質バイオマスエネルギー等に利活用



堤防の刈草は、家畜の敷藁やバイオガス資源として利活用



ダム貯水池で集積した流木は、無料配布を実施、また、チップ化し園路整備やバイオマス燃料として利活用

令和8年度（新規）

ていねやま 手稲山地区直轄地すべり対策事業

（直轄）

1. 概要

手稲山地区は、北海道の中心都市である札幌市に位置し、山麓には手稲市街地及び重要な交通網（札幌自動車道・国道5号・JR函館本線）が集中しています。

大規模な地すべりが発生すると、手稲市街地への被害に加え、幹線交通が分断され、地域防災や経済活動に甚大な影響を及ぼすことから、地すべり対策事業に着手します。

2. 計画内容

箇所名：札幌市

実施内容：地すべり対策

R8実施内容：調査検討、ボーリング等



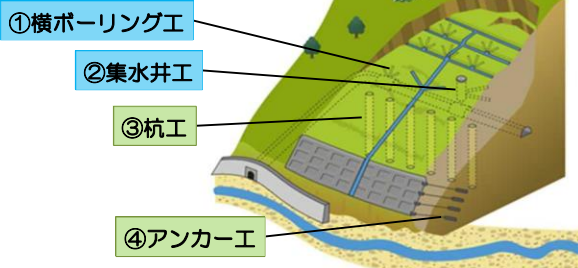
保全対象との位置関係

国土地理院地図3Dに加筆



【土砂災害警戒区域】
土砂災害による被害を防止・軽減するため、危険の周知、警戒避難体制の整備を行う区域
【地すべり防止区域】
地すべり防止工事に必要な区域、地すべりの発生を助長・誘発するおそれのある一定の行為が制限される区域

対策イメージ図



早期効果発現への取組

手稲山地区には多数の地すべりブロックが分布しており、大規模な地すべり防止対策が必要となる可能性があります。このため、ブロックごとに対策の優先度を設定し、地すべり対策事業を推進することで、早期の事業効果発現を図ります。

関係機関との連携

地すべり防止工事と並行して、北海道・札幌市と連携し、地域住民への情報提供等のソフト対策を含めたハード・ソフト一体の総合的な取組を進めます。

主な対策工



①横ボーリング工
地中に設置したパイプによって比較的浅い位置の地下水を排除します

②集水井工
井戸と集水ボーリングによって、深い位置の地下水を排除します



③杭工
杭を地すべり面より下部に届くように打ち込み、地すべり面の抵抗を強めます

④アンカー工
鋼線等を地すべり面より下部に届くように定着緊張し、地すべり面の抵抗を強めます

ちとせ 千歳川流域の治水対策

（直轄）

1. 概要

千歳川の中下流部には広大な低平地が広がっているため、洪水時に石狩川本川の高い水位の影響を長い区間にわたり長時間受けるなど水害が起きやすい特性を有しています。

特に、昭和56年8月上旬洪水は未曾有の大洪水となり、被害家屋2,683戸、浸水面積192km²の被害が発生しました。この戦後最大規模の洪水被害を解消するため、千歳川河川整備計画に基づき、堤防の整備や遊水地群の整備等を推進しており、遊水地群については、令和2年度よりすべての遊水地で供用を開始しています。

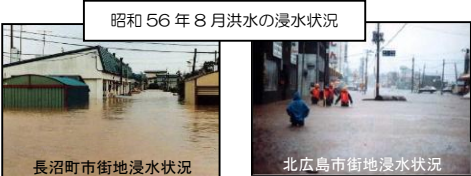
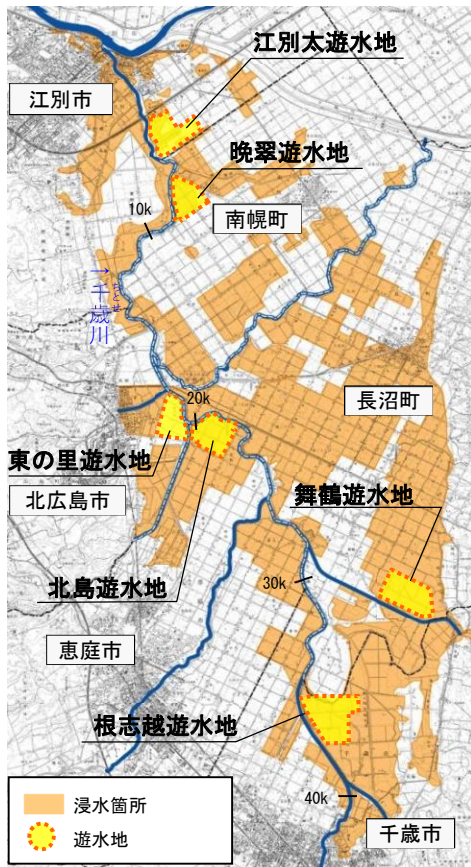
また、流域治水を本格的に実践するため、令和5年度に千歳川流域を特定都市河川に指定、令和6年度には雨水流出抑制対策等を法的枠組みのもと一体となって推進することを定めた千歳川流域水害対策計画を策定しています。これにより、河川整備に加え、地域が一体となった流域対策を一層推進し、早期に水災害への安全性の向上を図ります。

2. 計画内容

箇所名：江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、南幌町、長沼町

R8実施内容：築堤、掘削、用地補償等

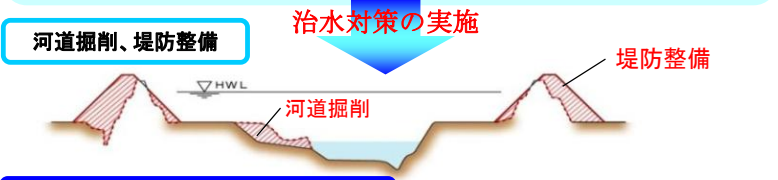
■S56.8上旬洪水による浸水実績図



千歳川の中下流部には広大な低平地が広がっているため、洪水時に石狩川本川の高い水位の影響を長い区間にわたり長時間受けることから、

- ◆堤防破堤等の危険性が高い。
- ◆雨水等が川に十分に排水ができない。

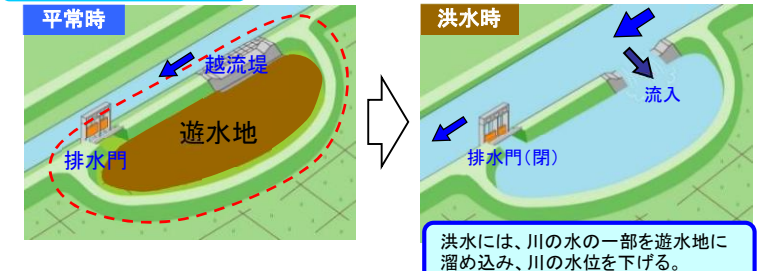
などの課題を有する。



川の断面を拡幅して洪水時の水位を下げる。

堤防の断面を大きくし、高い水位が長時間続く洪水に対応する。

遊水地群の整備 ※令和2年度供用開始



洪水には、川の水の一部を遊水地に溜め込み、川の水位を下げる。

きたむら 北村遊水地整備事業

（直轄）

1. 概要

石狩川流域には道都札幌市等が位置し、北海道の社会、経済の中核となっているほか、流域内の広大な農地は我が国有数の食料供給地となっています。特に昭和56年8月上旬洪水時には、11箇所の堤防が決壊するなど、氾濫面積614km²、被害家屋約22,500戸におよぶ甚大な浸水被害が発生しました。この戦後最大規模の洪水被害を解消するため、北村遊水地の整備を推進します。

2. 計画内容

箇所名：岩見沢市、月形町、新篠津村
面積：A=950ha
R8実施内容：築堤、排水門、補償等



■S56.8月上旬降雨による浸水区域

<S56.8月上旬洪水被害概要>
・氾濫面積約614km²、
・被害家屋約22,500戸、死者2名

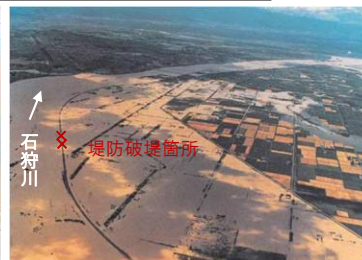
凡例
■ 氾濫区域
⊗ 破堤箇所



昭和56年8月洪水の浸水状況



創成川 市街地の浸水状況 (札幌市)



石狩川右岸 下新篠津付近の氾濫状況 (江別市)

■遊水地のイメージ



平常時は農地として利用



洪水時は遊水地として機能を発揮

空知川 いくとら 幾寅地区MIZBEステーション

（直轄）

1. 概要

平成28年8月洪水により激甚な災害が発生した南富良野町幾寅地区において、再度災害防止対策の整備や地域防災力の向上を目的に、地域と連携した地域連携防災事業を推進しています。この事業の一環として水防活動や災害復旧の拠点の機能のほか、地域活性化や賑わいの創出に資する機能を併せ持つ MIZBE ステーションの整備を、北海道開発局と南富良野町が連携して推進するとともに、地域の活性化につながる賑わいのある河川空間の創出を目指し「南富良野町かわまちづくり」の取組も推進します。

2. 計画内容

箇所名：南富良野町

R8実施内容：盛土造成、水防センター等



令和8年度（継続）

いくしゅんべつがわ

幾春別川総合開発事業（新桂沢ダム・三笠ほんべつダム）

（直轄）

1. 概要

幾春別川を含む石狩川下流域は、豊かな農地として利用されており、また、流域内には道央圏と上川地域を結ぶ基幹交通施設が位置するなど、交通の要衝となっています。このような幾春別川を含む石狩川下流域において、洪水災害から地域社会を守るため、幾春別川総合開発事業を推進します。

新桂沢ダムは、昭和32年に完成した北海道初の直轄多目的ダムである桂沢ダムを、約12m嵩上げする再開発ダムであり、令和5年度に完成しました。

三笠ほんべつダムは、幾春別川の支流である奔別川において新たに建設される治水専用ダムであり、令和4年度より本体工事を実施しています。

2. 計画内容

○目的

- ・洪水調節（幾春別川、石狩川の洪水防御（三笠市等の5市2町1村））
- ・流水の正常な機能の維持
- ・水道用水の供給（桂沢水道企業団（三笠市、岩見沢市、美瑛市）：0.1m³/s）
- ・工業用水の供給（北海道企業局：0.149m³/s）
- ・発電（電源開発㈱）：最大 17,290kW）

○ダム諸元

【新桂沢ダム】

- ・型式：重力式コンクリートダム
- ・堤高：75.5m（嵩上げ高11.9m）

【三笠ほんべつダム】

- ・型式：台形CSGダム
- ・堤高：53.0m

○OR8実施内容

- ・本体工事（三笠ほんべつダム）、
地すべり対策工 等



新桂沢ダム（令和6年3月完成）



三笠ほんべつダム（工事状況）

ぬかびら
糠平ダム再生事業

（直轄）

1. 概要

音更川を含む十勝川流域は、豊かな農地として利用されており、また、流域内には道東圏と道内各地を結ぶ基幹交通施設が位置するなど、交通の要衝となっています。

このような音更川を含む十勝川流域において、洪水災害から地域社会を守ることを目的に、既設ダムの事前放流の更なる活用や放流操作の最適化など、既存ストックを最大限活用する検討を推進するため、治水機能増強検討調査を令和6年度より着手しています。

2. 計画内容

○目的

- ・既設：発電（電源開発株）
- ・再生：洪水調節（音更川、十勝川の洪水防御（帯広市等の1市7町））

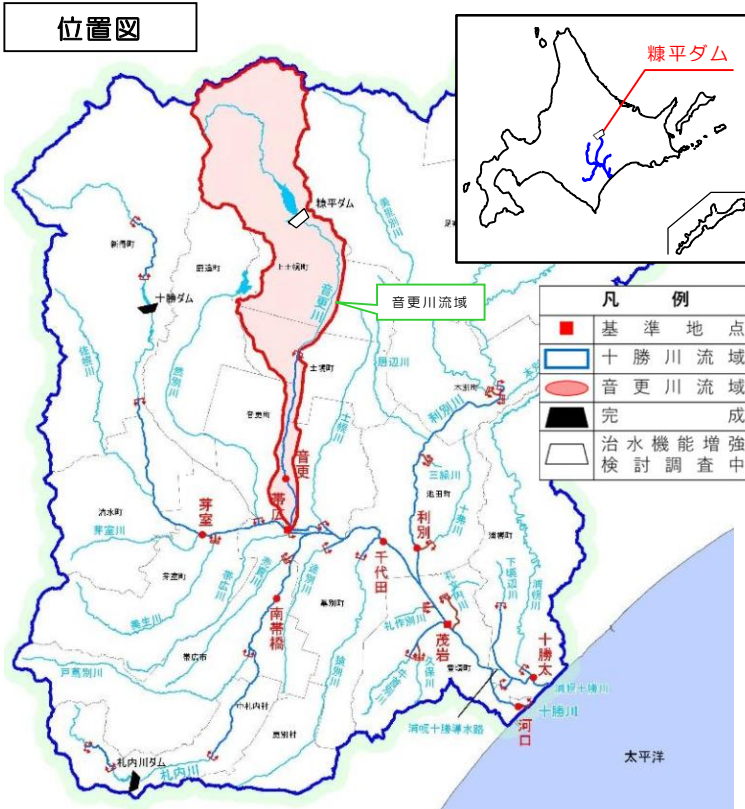
○ダム諸元

- ・型式：重力式コンクリートダム
- ・堤高：未定 ※詳細については、今後の調査・検討及び関係機関との協議により確定

○R8実施内容

- ・既設ダム活用検討調査 等

位置図



糠平ダム

既往最大洪水被害

洪水	被災状況
H28年8月	被災家屋：356戸 氾濫面積：1,412ha

※十勝川流域の洪水被害

たるまえさん 樽前山火山砂防事業

（直轄）

1. 概要

樽前山は、1667年から1987年までに大規模～中規模の噴火を繰り返し、1739年の大噴火では火砕流が山麓まで流下しました。1978年のごく小規模の噴火後も火口の高温状態が続いており、1996年以降地震活動が増加し、2010年にも火山性地震が2回発生し火山性微動が起きるなど、いつ噴火してもおかしくないと言われ、気象庁の常時観測火山となっています。

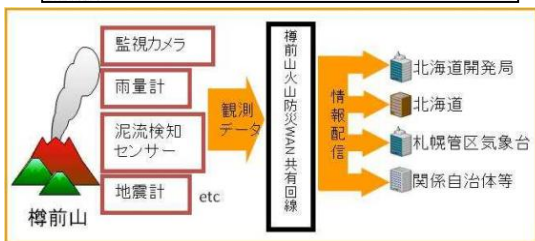
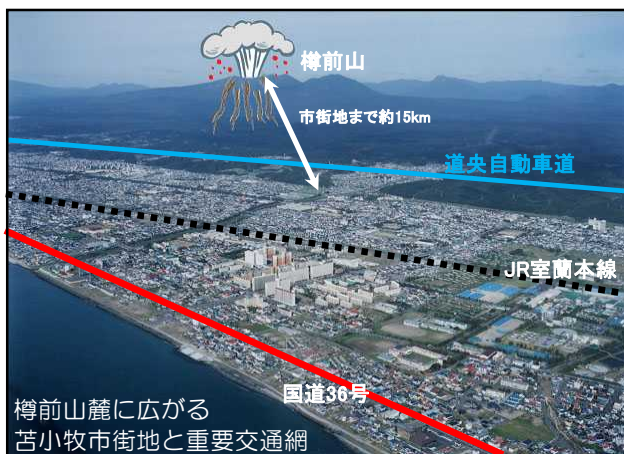
樽前山麓には、苫小牧市・白老町の市街地が位置し、道央自動車道・国道36号・JR室蘭本線などの重要交通網や、新千歳空港・苫小牧港・苫小牧臨海工業地帯などの物流拠点が集中しており、噴火した場合には、甚大な被害の発生が危惧されます。このため、火山泥流災害の被害軽減を目的として、平成6年度から直轄火山砂防事業により砂防設備の整備を推進しています。

2. 計画内容

箇所名：苫小牧市、白老町

実施内容：砂防堰堤工等

R8実施内容：^{おぼろぎわ}覚生川砂防堰堤群等



樽前山火山情報共有イメージ



覚生川砂防堰堤群(建設中)



令和8年度（継続）

いぶり 胆振海岸 海岸保全施設整備事業

（直轄）

1. 概要

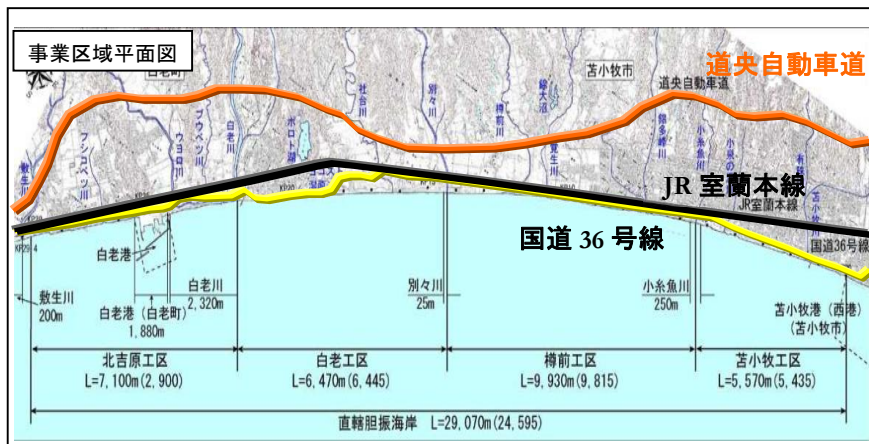
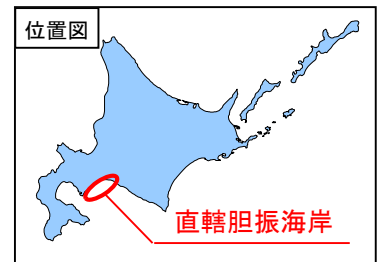
胆振海岸は、北海道の物流の要である苫小牧港の西側に位置する海岸であり、背後には重要交通網の国道36号、JR室蘭本線が隣接するとともに、それらに面して住宅が密集しています。当海岸では、海岸侵食の進行に伴い、夏期から秋期にかけての台風や季節風による波浪災害が頻発しており、住民生活や、経済活動に重大な影響を及ぼしていることから、海岸侵食対策として人工リーフ整備等を推進します。

2. 計画内容

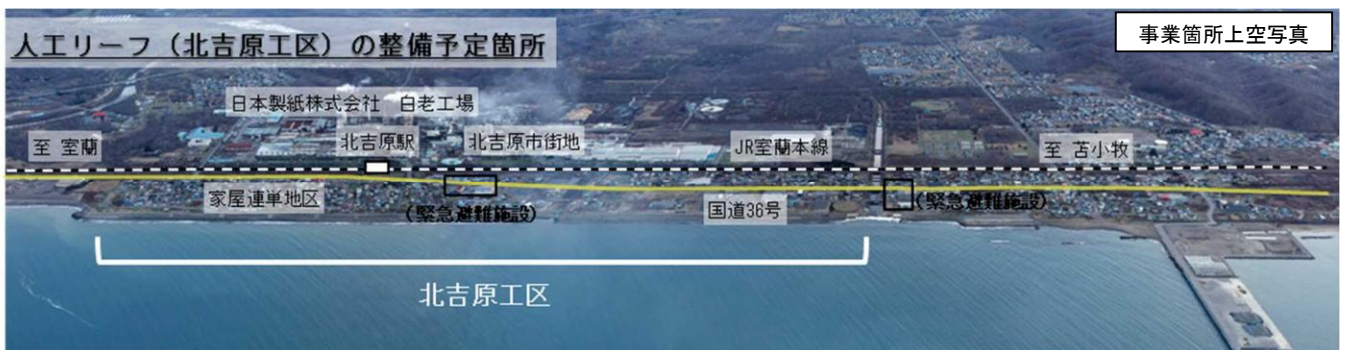
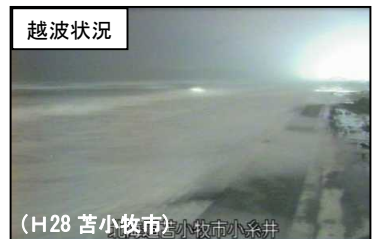
箇所名：苫小牧市、白老町

直轄区間延長：L=24.595km

R8実施内容：北吉原工区 人工リーフ 等



() 内の数字は港湾・河川区域を除いた延長



ふくろちぬま
石狩川下流自然再生【袋地沼地区】

（直轄）

1. 概要

袋地沼の自然再生は、上位計画である『石狩川下流自然再生計画書』（平成26年1月改訂）における位置付けに基づいて、石狩川全体の中での役割を果たすことが求められます。

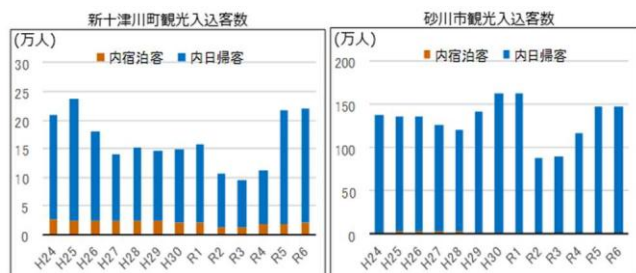
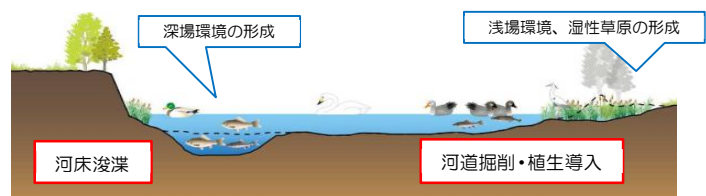
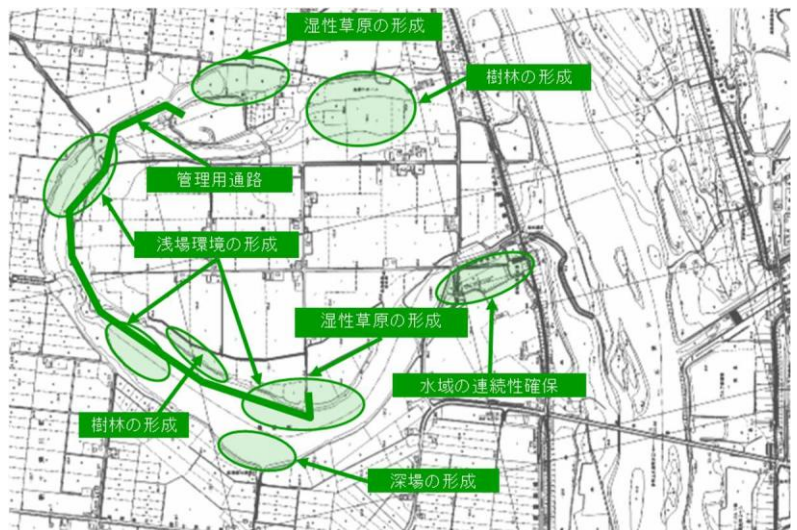
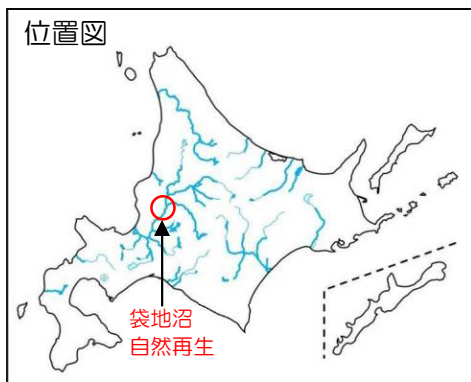
石狩川下流自然再生計画書では、段階的に自然再生を進めるものとされており、短期的な対応として生物の生息環境となる拠点整備を進めることとなっています。

袋地沼を含む旧川はこの拠点整備の候補として位置付けられており、旧川を活用して、湿地・樹林といった環境要素を複合的に保全・再生することで、多様性の高い空間を形成することが求められています。

2. 計画内容

箇所名：樺戸郡新十津川町、砂川市

R8実施内容：設計、モニタリング



(北海道庁統計資料を元に作成)

ちとせ 千歳市かわまちづくり

（直轄）

1. 概要

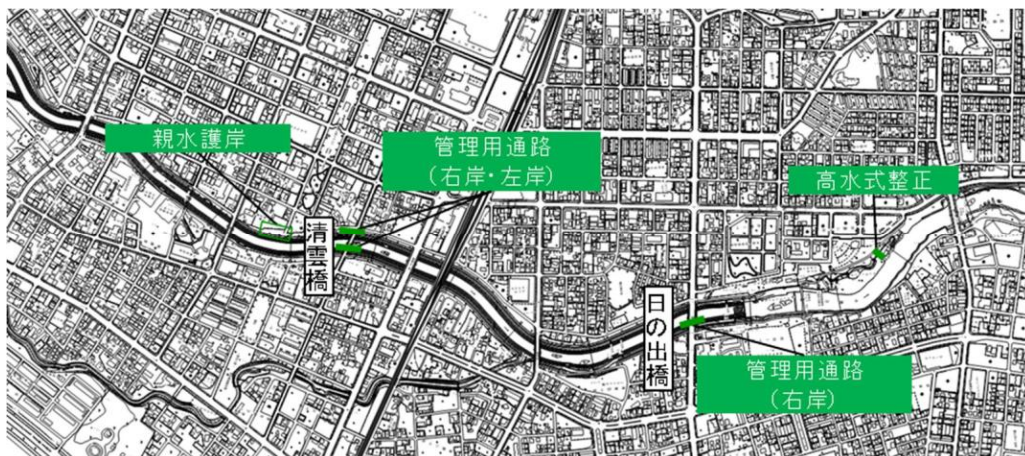
千歳市では、「千歳市第3期都市計画マスタープラン」に基づき、千歳川沿いの観光拠点であるサーモンパークと市民の憩いの場所であるグリーンベルトについて、拠点間の周遊性や利便性の向上を図るなど、新たな観光価値を高めるアクティビティと一体となった水辺空間の整備により、エリア全体の価値を高めるとともに、人々が集い、賑わいのある河川空間の創出を目指しています。

本計画では、国土交通省が親水護岸、管理用通路等の水辺整備、千歳市が看板や照明、駐車スペース、休憩施設等の整備を行うことで、地域の観光振興及び活性化を推進します。

2. 計画内容

箇所名：千歳市

R8実施内容：測量、詳細設計



親水護岸（親水テラス）

管理用通路（アンダーパス）

法面整備（カヌーポート）と駐車スペース



令和8年度（新規）

あばしり よびと
網走湖呼人地区かわまちづくり

（直轄）

1. 概要

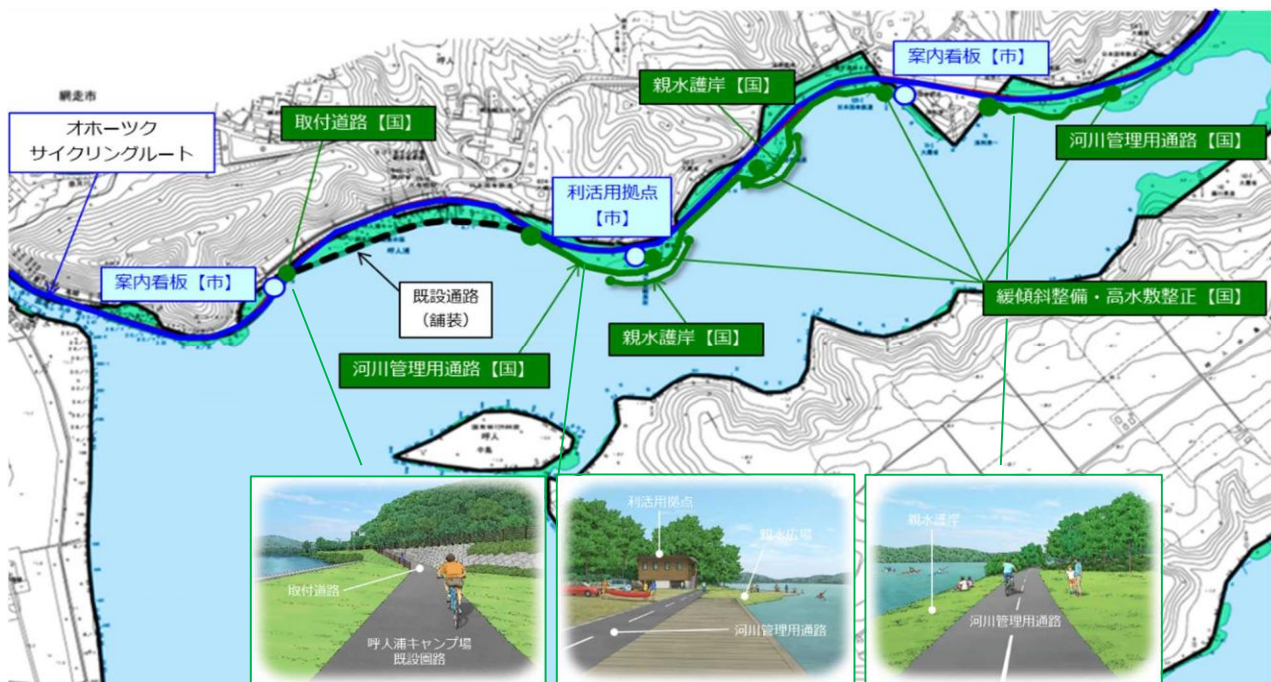
網走湖にはミズバショウ群生地等の豊かな水辺環境が広がり、観光・交流施設が点在し水辺ではイベント等が開催されるなど、多くの市民や観光客に利用されているが、観光・交流施設間の観光動線の整備が不十分な状況です。

このことから、かわとまちが一体となった観光振興や親水空間の創出を通じて、活力あふれる地域振興を目指した「かわまちづくり計画」を策定し、網走市のまちづくりと連携し、河川管理用通路等を整備することにより、網走川沿いの賑わい創出、地域の活性化を推進します。

2. 計画内容

箇所名：網走湖呼人地区

R8実施内容：設計



2. 道路事業

<基本方針>

北海道開発については、「第9期北海道総合開発計画」（令和6年3月12日閣議決定）において、多様な主体と「共に北海道の未来を創る」ことをコンセプトに、北海道の強みである「食」、「観光」、「再生可能エネルギー」のポテンシャルを踏まえ、豊かな北海道を実現し我が国の経済安全保障に貢献することを目指し、北海道の価値を生み出す「生産空間」の維持・発展を図ることとしています。

道路における具体的な取組としては、「世界を見据えた人流・物流ネットワークの形成」の実現に向け、農水産物等の輸送を支える高規格道路の整備、新幹線駅に直結するバスターミナルや創成川通（都心アクセス道路）の整備等を推進します。また、「観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくり」の実現に向け、道の駅における情報提供の多言語化、シーニックバイウェイ北海道、サイクルツーリズム等を推進します。さらに「ゼロカーボン北海道の実現」に向け、道の駅における急速EV充電施設の設置等を推進します。

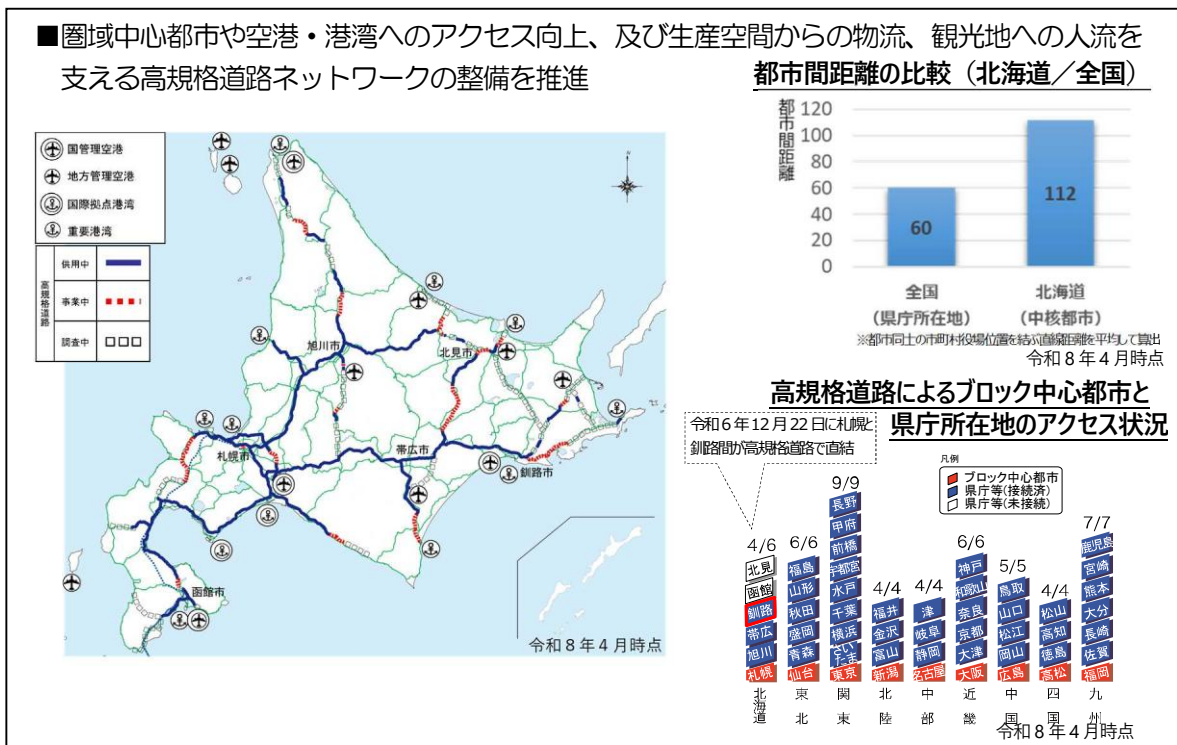
気候変動により激甚化・頻発化する水災害や巨大地震等の大規模災害、インフラの老朽化の現状等を踏まえ、「生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくり」の実現に向け、災害時における代替性確保のための高規格道路整備や基幹的な道路ネットワークの強化、社会経済活動を支える道路施設の予防保全型のメンテナンスへの転換、i-Snow等のインフラ分野のDX化による現場の生産性・効率性の向上を推進します。

<主要施策>

1 北海道型地域構造を支え、世界を見据えた人流・物流ネットワークの形成

(1) 高規格道路ネットワークの整備

広域分散型社会を形成している北海道において、食・観光等の基幹産業を支えるとともに、国土の強靱性を確保し、地域間の連携強化を図るため、高規格道路ネットワークの整備を推進します。



＜生産性向上が期待されるストック効果

国道40号 音威子府バイパス（音中道路） -水産品の流通利便性向上を支援->

- 全国約2割の漁獲量を誇る宗谷地域のホタテは、遠別町等から国道40号を利用し稚貝が供給され、また、国道40号等を経由し旭川市や道外の市場へ流通しています。
- 全国約1割の乳用牛取引を誇る豊富地域家畜市場では、年間約2万頭の乳用牛が国道40号を経由し、名寄市や旭川市等の酪農家等の取引先へ輸送されています。また、道北地域の生乳を原材料とする牛乳やバターは品質が好評で全国に出荷されています。
- 音中道路の開通により、農水産品輸送の速達性や安定性が向上することで、効率的な物流ネットワークの構築が期待されています。

▼農水産品（ホタテ・ホタテ稚貝・生体牛・生乳・乳製品）の輸送状況

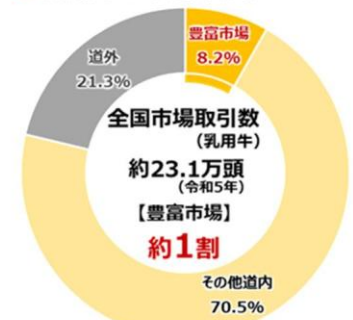


●ホタテ漁獲量割合



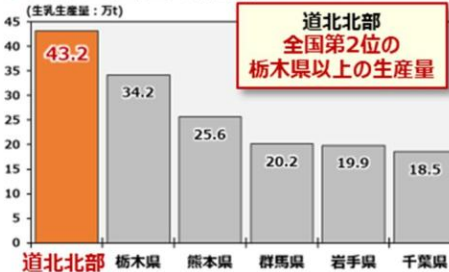
※ 都道府県別漁獲量（漁業・養殖業生産統計）を道内市町村別割合（北海道水産現勢）で按分
資料：令和5年漁業・養殖業生産統計（農林水産省）
令和5年北海道水産現勢（北海道）

●乳用牛の取引状況



資料：家畜市場データベース（一社 全国肉用牛振興基金協会）

●生乳生産量の比較（上位5都道府県）



資料：牛乳乳製品統計（農林水産省）、道北経済レポート（農務省旭川財務事務所）、令和5年市町村別農業産出額（推計）（農林水産省）

※ 道北北部：上川北部（名寄市・士別市・和歌町・剣淵町・下川町・美深町・音威子府村・中川町・網走内町）、留萌北部（遠別町・天塩町）、宗谷全域（稚内市・猿払村・遠別町・中頓別町・枝幸町・豊富町・網走町・礼文町・利尻町・利尻富士町）

※ 都道府県別生乳生産量（牛乳乳製品統計）及び毎都道府県別生乳生産量（道北経済レポート）をベースに、農業産出額・生乳の市町村別割合（市町村別農業産出額）で按分

TOPIC 道北産牛乳

- 道北地域で生産される“特選”基準をクリアした高品質な牛乳などは、苫小牧港や小樽港を経由し、首都圏周辺のコンビニ等へ出荷されています。

＜生産性向上が期待されるストック効果

E38 道東自動車道 阿寒 IC～釧路西 IC [令和6年度開通] -根釧地域の観光振興を支援->

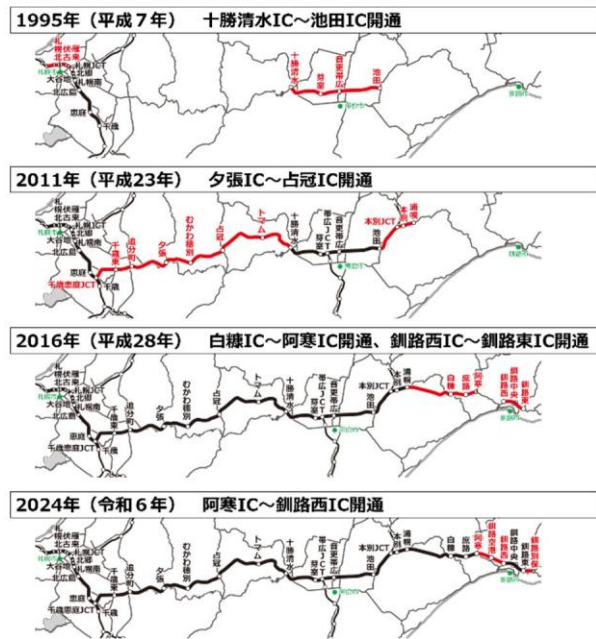
○十勝・釧路地域の観光入込客数は占冠 IC～トマム IC、夕張 IC～占冠 IC 開通以降、増加傾向となっており、コロナ禍を経て、同地域の令和6年度の観光入込客数は過去最高*を記録しています。

○また、観光期（GW、お盆）の釧路・根室地域の道の駅来訪者は、道央・道南方面や道外からの割合が増加傾向です。

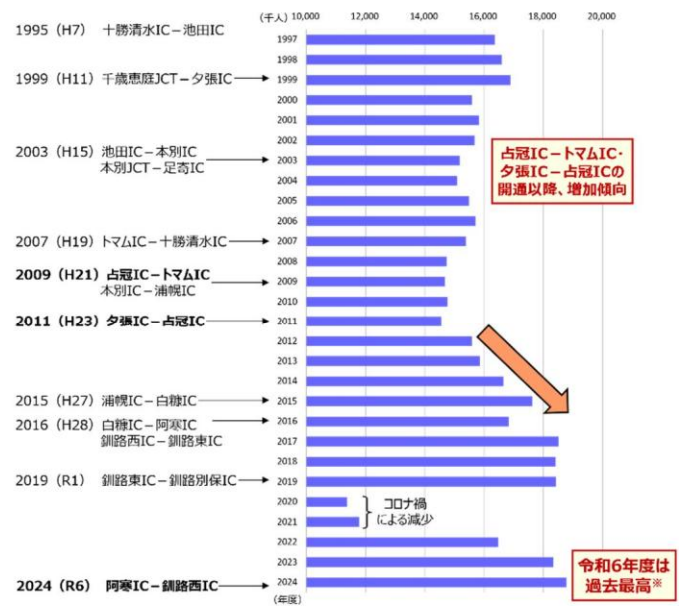
○なかでも道の駅「厚岸グルメパーク」や道の駅「スワン44ねむろ」では、5割以上が道央・道南方面や道外といった遠方からの来訪者となっています。

※1996年以前と1997年以降は調査方法が異なり、経年比較できる1997年以降の調査方法において過去最高

▼道東自動車道の延伸

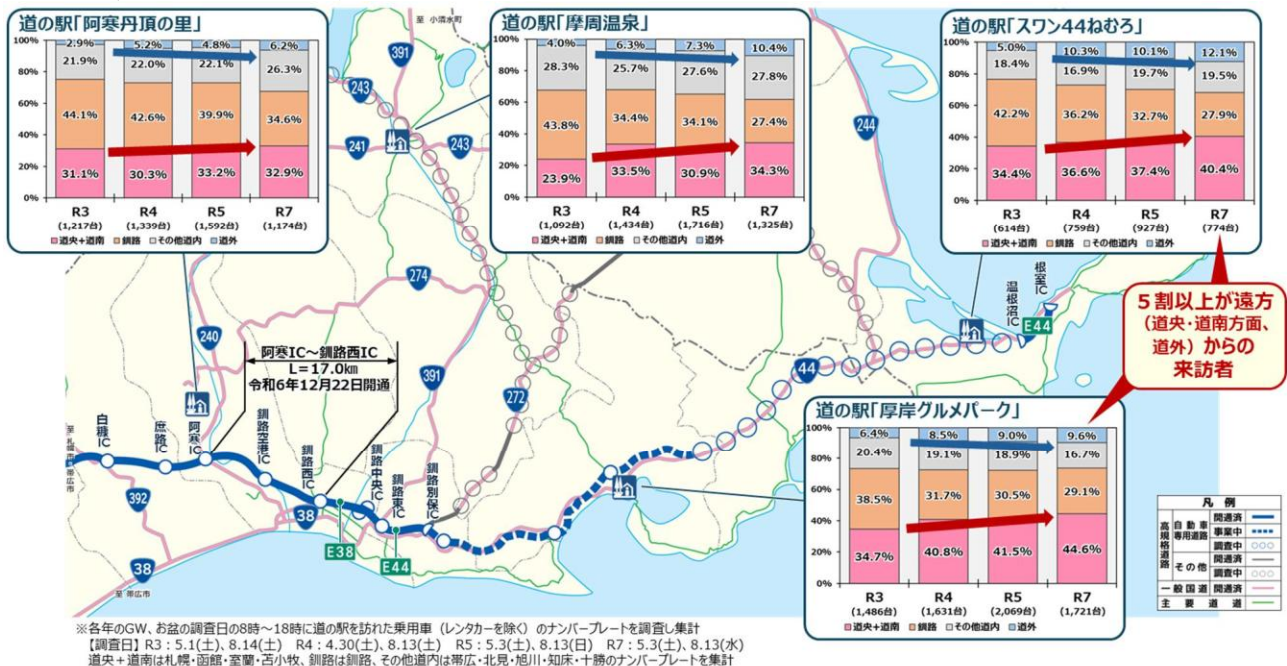


▼道東自動車道の延伸による観光入込客数の変化



資料：北海道観光入込客数調査報告書（北海道）
 ※十勝総合振興局、釧路総合振興局管内の市町村の観光入込客数の合計値

▼釧路・根室地域の道の駅来訪者



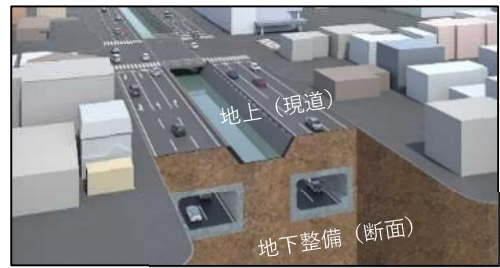
※各年のGW、お盆の調査日の8時～18時に道の駅を訪れた乗用車（レンタカーを除く）のナンバープレートを調査し集計
 【調査日】R3：5.1(土)、8.14(土) R4：4.30(土)、8.13(土) R5：5.3(土)、8.13(日) R7：5.3(土)、8.13(水)
 道央+道南は札幌・函館・室蘭・苫小牧、釧路は釧路、その他道内は帯広・北見・旭川・知床・十勝のナンバープレートを集計

(2) 札幌における交通結節機能と都市機能の強化

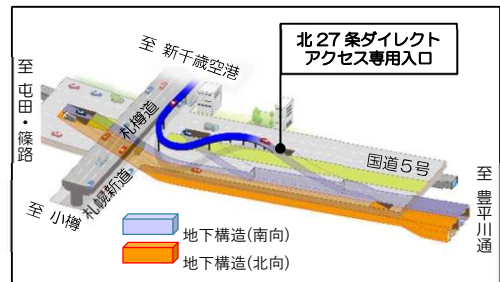
北海道新幹線札幌延伸を見据え、道内各地を結ぶ高規格道路と札幌都心とのアクセス強化を推進するとともに、札幌駅周辺における交通結節機能の強化を図ります。

<道内各地を結ぶ高速道路と札幌都心とのアクセス強化>

- 札幌都市圏は、北海道全体に及ぶ中枢管理機能や他の基礎圏域では提供できない高次都市機能を担っています。
- 一方、人口が同規模の政令市に比べ、都心と高規格道路のICとの距離が遠く、空港や道内各地域とのアクセスに課題があります。
- 北海道全域との広域的な交流・連携機能の確保を目指し、札幌都心部へのアクセス道路(創成川通)の整備を推進します。



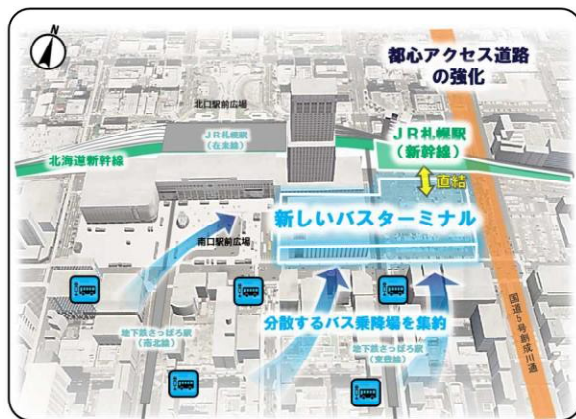
A-A【整備イメージ(本線)】



B【整備イメージ(ダイレクトアクセス)】

<札幌駅周辺における交流拠点整備>

- 都道札幌の玄関口にふさわしい空間の形成と高次都市機能・交通結節機能の強化を目指し、新しいバスターミナルの整備を推進します。
- 平常時は快適で利便性の高い待合空間、災害時は避難者の受入空間の確保等により防災拠点として寄与します。



都心アクセスの強化

- ・都心アクセス道路(国道5号創成川通)の整備により、交通混雑、交通事故の低減を図り、都市機能を最大化

新幹線駅との連携

- ・北海道新幹線札幌駅と一体的に整備
- ・東改札口及び交通広場を整備し、新たな公共交通システム等の二次交通と接続することで、一大交通結節点を形成

新しいバスターミナル

- ・都市間バス、路線バスを集約するバスターミナルを整備
- ・札幌駅周辺において新たなモビリティ等多様な交通モードとの連携により交通結節機能を強化



待合空間のイメージ(平常時)



バス乗降空間のイメージ(平常時)



札幌駅周辺の帰宅困難者の様子(平成30年9月6日北海道胆振東部地震時)

(3) 北海道型地域構造の保持・形成に向けた物流効率化支援及び地域公共交通支援

北海道型地域構造の保持・形成を図るため、地方部の生産空間で生産される農水産品の消費地への輸送や、地方部への日用品等の輸送といった物流の効率化を支援します。また、生産空間の利便性向上のため、生産空間と市街地をつなぐ地域公共交通の維持を支援します。

<物流効率化支援>

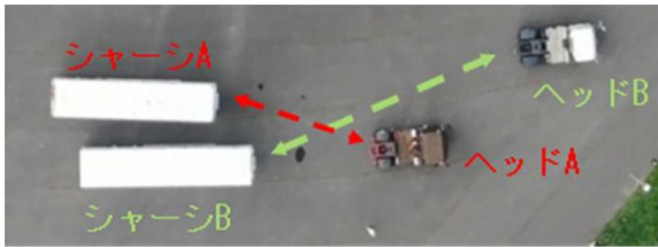
○これまで実施してきた道路施設等を活用した中継輸送実証実験を踏まえ、中継輸送に活用可能な国道の道路施設（簡易パーキング等）をまとめた北海道中継輸送ポイントマップを公開しました。

【北海道中継輸送ポイントマップ】

路線番号	国道 12 号
所在地	岩見沢市幌向南一条一丁目
ヘッド交換	可能
照明	あり
トイレ	なし

確認したい施設を選択すると詳細情報を表示

令和7年度より運用開始した北海道中継輸送ポイントマップ



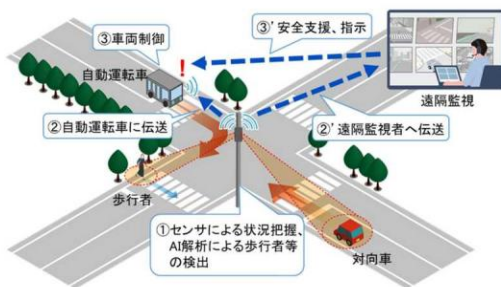
令和6年度 名寄市砺波でのヘッド交換の様子



長距離輸送を対象とした中継輸送のイメージ

<地域公共交通支援>

○生産空間と市街地をつなぐ自動運転バスの運行を、路車協調システムにより支援します。



路車協調システム (イメージ)



自動運転の車両 (上土幌町)

2 多様で豊かな地域社会の形成

＜「生産空間」の維持・発展に資する「道の駅」の機能強化＞

地方部の「生産空間」を支える都市機能・生活機能の維持・確保を図るため、日常的な生活サービス機能を「道の駅」に集約するなど、地域の拠点づくりを支援していきます。「道の駅」の交通結節点化など、地域の拠点化に向けた多様な取組を推進していきます。

＜「道の駅」を拠点とした交通結節機能の強化＞

○「道の駅」を拠点とした、生産空間における持続可能な交通結節機能の強化を推進します。



【取組事例】

道の駅「おとふけ」では、都市間バスや空港連絡バス（新千歳空港・帯広空港）の乗降場等を設置することにより交通結節機能の強化が図られています。

道の駅「おとふけ」のパークアンドドライド

＜「道の駅」における子育て環境の創出＞

○親子で滞在しやすい子育て環境創出のため、子育て応援施設の整備を推進します。



子育て応援施設、自販機
道の駅「るもい」



紙おむつ、液体ミルク
お尻ふきを販売



授乳室
道の駅「花ロードえにわ」



屋根付き駐車スペース
道の駅「風Wとままえ」

＜「道の駅」における情報提供の多言語化＞

○日本政府観光局（JNTO）外国人案内所の認定取得や、多言語による観光地案内・道路情報提供の充実等の取組を推進します。



JNTO 認定外国人観光案内所
道の駅「ニセコビュープラザ」



道の駅「おとふけ」 デジタルサイネージによる多言語での情報提供



3 観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくり

<「シーニックバイウェイ北海道」の推進>

○シーニックバイウェイ北海道は、地域と行政が連携し、美しい景観づくり、活力ある地域づくり、魅力ある観光空間づくりを行う取組です。平成17年度より開始し、現在、15の指定ルートと2つの候補ルートがあり約500団体が活動しています。



沿道の植栽活動（恵庭市）



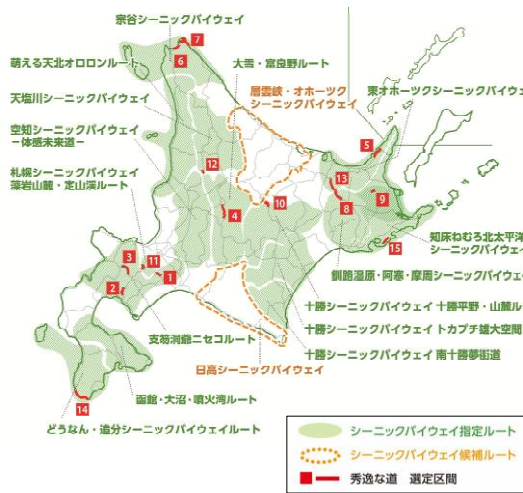
企業と連携した活動PR（砂川市）



サイクリングイベントの実施（斜里町）

■シーニックバイウェイ「秀逸な道」

- 道内各地の活動団体がお薦めする特に魅力ある景観等を有する道路を15区間認定し、景観の維持・形成や誘客に向けた情報発信等を重点的に実施します。また、令和5年から「秀逸な道」看板を順次設置しており、北海道のドライブ観光をより一層促進します。



1 支笏洞爺ニセコルート（ウェルカム北海道エリア）支笏湖ブルーに出逢う道（千歳市）



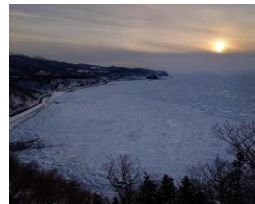
2 支笏洞爺ニセコルート（洞爺湖エリア）洞爺湖の美しさ、火山の迫力を感じる道（洞爺湖町）



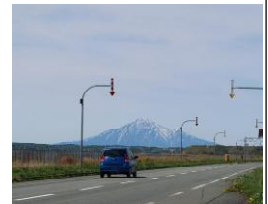
3 支笏洞爺ニセコルート（ニセコ羊蹄エリア）美しく変化する羊蹄山の稜線に寄り添う道（倶知安町・京極町・喜茂別町）



4 大雪山・富良野ルート 十勝岳と四季を彩る花々に出会う道（上富良野町）



5 東オホーツクシーニックバイウェイ 一面の流水が織りなすクレートネイチャーを体感する道（斜里町）



6 宗谷シーニックバイウェイ 秀峰・利尻山を望む道（稚内市）



7 宗谷シーニックバイウェイ 大地の息吹を感じる宗谷周水河（宗谷丘陵）の道（稚内市）



8 釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ 美幌峠と屈斜路湖を風のよう吹き抜ける道（弟子屈町）



9 釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ 大自然の中を一直線に貫く中標津ミルクロード（中標津町）



10 十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ルート 樹海に佇む天空の道（上士幌町）



11 札幌シーニックバイウェイ 藻岩山麓・定山渓ルート 森を抜ける公園のような道（札幌市）



12 天塩川シーニックバイウェイ 日本一のそば畑を走る道（幌加内町）



13 東オホーツクシーニックバイウェイ 並木のウエルカムゲートを掲げて絶景へと至る道（美幌町）



14 どうなん・追分シーニックバイウェイルート 夕風薫るいにしへの道（松前町）



15 知床ねむろ北太平洋シーニックバイウェイ 北太平洋と湿地の風土に息づく自然と漁業の道（厚岸町・浜中町）



<サイクルツーリズムの推進>

○世界水準のサイクルツーリズム環境の実現に向け、安全で快適な自転車走行環境の整備やサイクリストの受入環境の充実、情報発信の取組を推進します。

■「ルート協議会」の登録状況

- 「北海道サイクルルート連携協議会」（令和元年8月設立）において、質の高いサイクルツーリズムを提供する団体（ルート協議会）を募集し、要件を満たすルートに登録しています。



- 北海道サイクルルート連携協議会**
北海道開発局、北海道運輸局、北海道、北海道商工会議所連合会、北海道観光機構、シーニックバイウェイ支援センターにより構成
- ルート協議会**
質の高いサイクルツーリズムを提供する団体。市町村、総合振興局・振興局、開発建設部、民間事業者団体（観光協会、商工会議所等）、自転車関連団体等により構成

■自転車走行環境の整備



路肩拡幅

■受入環境の充実



民間企業と連携し、サイクルラックを設置

緊急時のサポート（パトロール車への工具等配備）

■情報発信



ルートマップの多言語化



札幌駅前通地下歩行空間で実施したパネル展

●自転車月間における散走企画の実施

自転車活用推進法において、5月を「自転車月間」と定められており、どうなん海道サイクリングルートでは、自転車月間期間中の特別企画として、世界遺産と食を楽しむコースを設定し、自転車で散歩をするようにその土地の文化、歴史、自然、グルメなどを楽しむ「散走」イベントを開催しました。道の駅「縄文ロマン南かやべ」（垣ノ島遺跡）や大船遺跡といった世界遺産を巡ったほか、食では鹿部町で開催された「鹿部うまいもの祭り」を訪れ、鹿部町の海の幸を堪能し、道南地域の魅力を再確認するとともにサイクルツーリズムの推進に寄与した取組となりました。



どうなん海道サイクリングルートで実施した散走企画の開催状況

●現地視察及び意見交換会

北海道サイクルツーリズム連携協議会アドバイザー会議委員による現地視察及び意見交換会を令和7年9月にきた北海道ルートで実施しました。稚内空港をはじめとした受入環境の整備状況や情報発信について確認するとともに、国道238号を走行し、走行環境の整備状況について確認しました。意見交換会では各委員や参加したルート協議会メンバーから受入環境、走行環境、情報発信について課題解決に向けた意見をいただきました。



現地視察状況（稚内市）



現地視察を踏まえた意見交換会

●フォトコンテストの実施

サイクリストを訪れてもらうきっかけづくりとして、「サイクルルート北海道フォトコンテスト2025」を実施しました。サイクルルートのいずれかの沿線で「自転車をテーマにした写真」をご応募頂き、「サイクルルート北海道50選」を選出しました。応募写真を活用し情報発信の取組を推進します。



きた北海道ルート



トカプチ400



オホーツクサイクリングルート

※サイクルルート北海道フォトコンテスト2025 入選作品より

4 激甚化・多様化する災害への対応と安全・安心な社会基盤の形成

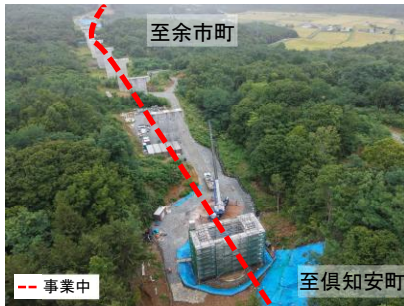
(1) 災害からの迅速な復旧を支える道路交通ネットワークの強靱化

地震・津波による被害や社会的影響を最小限に抑えるため、代替性確保のための高規格道路の整備や緊急輸送道路上の橋梁の耐震補強、道路斜面や盛土等の防災対策を推進します。

また、気候変動に伴い激甚化・頻発化する気象災害、切迫する大規模地震や急速に進む施設の老朽化等に対応するべく、災害に強い国土幹線道路ネットワーク等を構築するため、高規格道路ネットワークの耐災害性強化や老朽化対策等の抜本的な対策を含めて、防災・減災、国土強靱化の取組の更なる加速化・深化を図ります。

- ・災害に強い国土幹線道路ネットワークの機能を確保するため、高規格道路の未整備区間の解消及び高規格道路と代替機能を発揮する直轄国道とのダブルネットワークの強化等を実施します。
- ・橋梁や道路の流失、土砂災害、電柱倒壊等による道路の通行止めへのリスク解消や津波や洪水からの避難場所確保のため、河川に隣接する道路構造物等の流失防止対策や法面・盛土対策、無電柱化、盛土等を活用した避難施設の整備を実施します。

▼災害に強い国土幹線道路ネットワークの機能強化



北海道横断自動車道（国道5号）俱知安余市道路

▼道路施設の老朽化対策



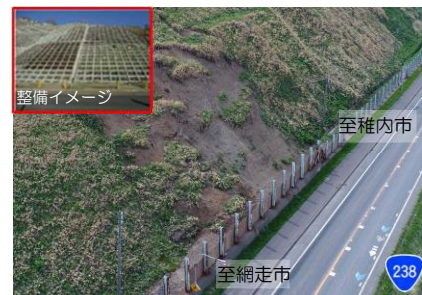
国道39号 上川町（対策事例）

▼河川隣接道路構造物の流失防止対策



国道5号 蘭越町（対策事例）

▼道路法面・盛土の土砂災害防止対策



国道238号 稚内市（対策前）

▼道路橋梁等の耐震機能強化



E60 帯広・広尾自動車道（対策事例）

▼道路（道の駅）における防災拠点機能強化



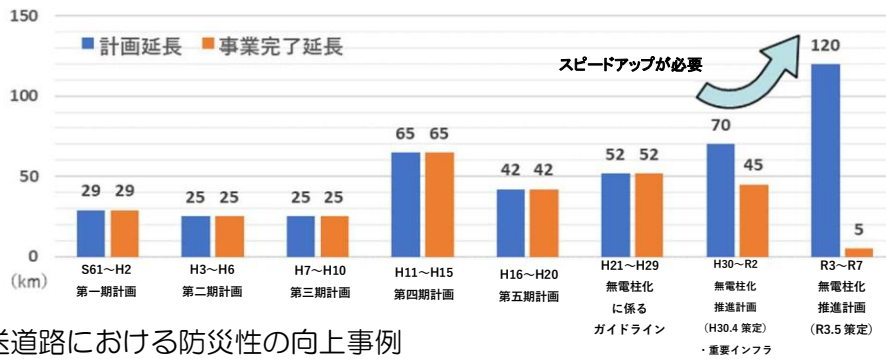
道の駅ニセコビュープラザ（設置事例）

(2) 防災、通行の安全、景観の向上に資する無電柱化の推進

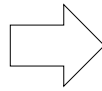
道路の防災性の向上、安全で快適な歩行空間の確保、良好な景観の形成や観光振興の観点から実施している電柱の新設抑制及び無電柱化について、低コスト技術等を積極的に導入しつつ、事業のスピードアップを図ります。

■無電柱化整備状況（北海道）

- 北海道における無電柱化整備済延長（S61～R7末の計40年間の施工延長）は、令和7年度末時点で約288km（約7km/年）



■緊急輸送道路における防災性の向上事例



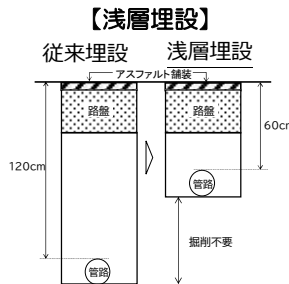
道路の防災性の向上（国道44号 釧路市）

■低コスト・スピードアップ手法

- 積雪寒冷な環境下でも活用可能な技術を官民連携のもと開発・導入。また、冬期施工の回避及び施工期間の確保を目的に複数年合意を導入。

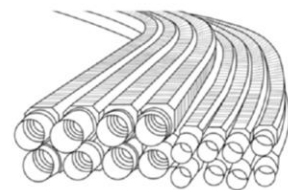


浅層埋設、角型多条電線管の施工
（国道5号 七飯町）



凍結深さを考慮した浅層埋設のイメージ

【角型多条電線管】



角型多条電線管のイメージ
（国土交通省 HP より）

（従来よりも浅い位置に管路を埋設することで掘削量や仮設材を削減）
（安価で弾性があり、軽量の管種の採用で施工性改善とコスト低減）

【新工法の活用：トレンチャー掘削機】



トレンチャー機械による掘削施工
（国道231号 留萌市）

<新工法> トレンチャー掘削	約89.6m/h ※掘削土積み込み有り
※既存の試験結果からの推定値(掘削幅0.6m、掘削深さ0.67m※舗装0.08m控除)	
<従来施工> バックホウ掘削	約17.6m/h ※掘削土積み込み有り
※土木工事標準積算基準書による試算値(掘削幅0.6m、掘削深さ0.67m※舗装0.08m控除)	

（無電柱化のコスト縮減の手引き 令和6年3月
国土交通省道路局 環境安全・防災課 P88 参照）

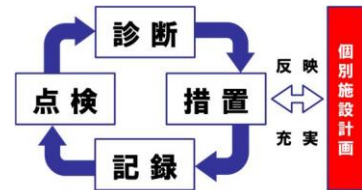
(3) 社会経済活動を支える道路施設のインフラ老朽化対策

道路施設が有する機能を長期にわたって適切に確保するため、各施設に応じた点検及び計画的・効率的な維持管理を図り、適切な老朽化対策を推進します。

○事後保全から予防保全への転換に向け、ドローン等新技術の活用による点検の高度化・効率化や施設の集約・再編等のインフラストックの適正化等により、戦略的なインフラ老朽化対策を推進するとともに、人材育成や技術支援を推進します。

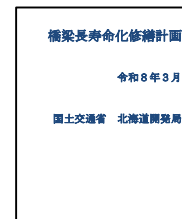
■メンテナンスサイクル

橋梁等の道路構造物について、適切に点検・診断、その結果に基づく修繕等を実施するメンテナンスサイクルを構築しています。

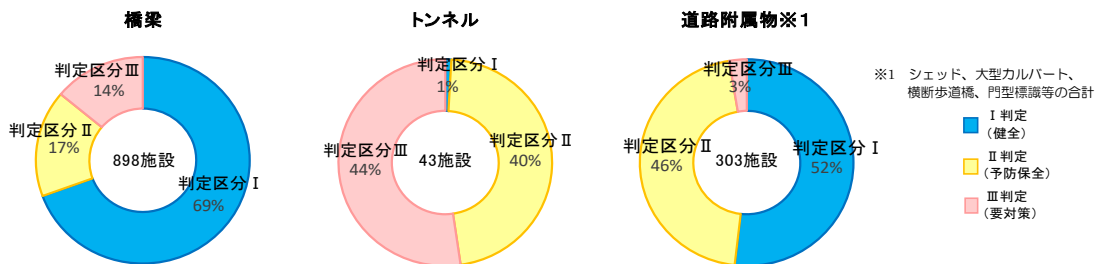


■個別施設計画の策定

橋梁等の道路構造物について、国土交通省のインフラ長寿命化計画（行動計画）に基づき、点検・診断等の結果を踏まえた個別施設計画（橋梁長寿命化修繕計画、道路トンネル個別施設計画、大型の構造物個別施設計画）を策定し、計画的な維持管理を図っています。



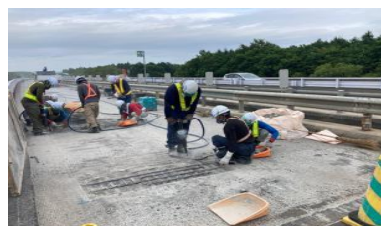
■北海道開発局の管理施設数と点検結果の状況（3巡目点検(2024年度)の結果）



Ⅲ判定の対策を実施するとともに、予防保全としてⅡ判定施設の対策を実施し、的確なメンテナンスサイクル（点検・診断・措置・記録）を推進。

■構造物の修繕

損傷が深刻化してから大規模な修繕を行う「事後保全型」から、損傷が軽微なうちに補修を行う「予防保全型」に転換を図るため、早期に措置が必要な施設の修繕を推進し、トータルコストの縮減を図ります。



床板補修



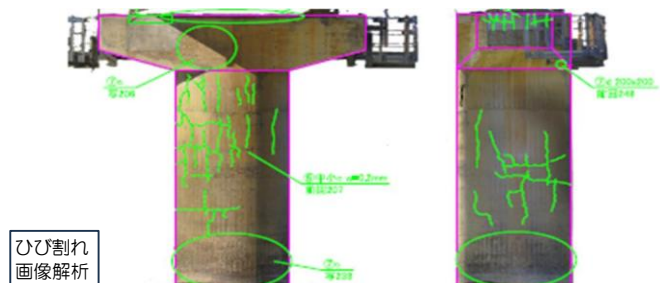
伸縮装置補修

■点検の高度化・効率化

トンネル、橋梁、舗装の定期点検では、点検支援技術活用を原則化し、新技術の活用を推進しています。

<新技術活用事例>

ドローンを用いた画像解析技術を活用することにより、橋梁点検を効率的に実施。



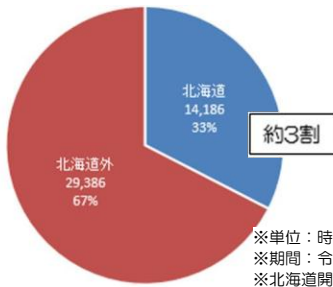
ひび割れ画像解析

(4) 冬期交通の確保

冬期の安全・安心を確保するため、冬期災害に備え、代替性確保のための高規格道路の整備、国道における防雪対策、防災訓練や住民の意識啓発等を推進します。また、大雪・暴風雪時の取組として、道路管理者間で連携した高速道路通行止め時の並行路線対策やラジオ放送・SNS を活用した情報発信、TEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊：リエゾン^注）を含む）の派遣による自治体支援などを、円滑かつ迅速に、きめ細やかに実施します。

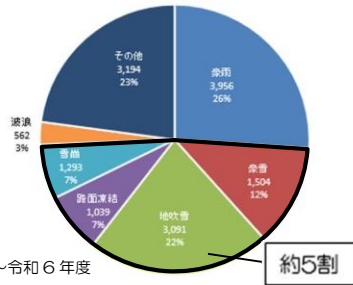
（注：重大な災害の発生または発生のおそれがある場合に情報収集等を目的として地方公共団体へ派遣する職員）

■直轄国道の通行止め 通行止め時間内訳(全国) (北海道/北海道外)



※単位：時間
※期間：令和2年度～令和6年度
※北海道開発局調べ

通行止め時間内訳 (北海道)



【R8.1.20 に発生した国道335号羅臼町吹雪状況】



■高規格道路の整備

【高規格道路の事業例（倶知安余市道路）】



並行する国道5号稲穂峠で発生した立ち往生車両

■防雪対策

【国道における吹雪対策事例】



防雪柵の整備



自発光式の視線誘導標の整備

■災害発生時における取組

【高速道路通行止め時の並行路線対策】



高速道路通行止め時における並行路線のCCTVカメラ監視強化

【SNS を活用した情報発信】

国土交通省 北海道開発局 道路開発建設部道路情報 @hkd_mlit_roadks
【通行止め情報】12月14日（日）に発生した大雪の影響により、道東自動車道9区間、国道4路線7区間において通行止めをしています。現在、解除に向けて鋭意除雪作業を実施しております。通行止め解除までしばらくお待ちください。#いのちとくらしをまもる防災減災 #国道



X を活用した国道の通行止めに関する情報発信

【派遣による自治体支援の状況】



上：連絡調整会議状況（札幌市）（令和8年2月）
下：スクラム除雪状況（帯広市）（令和7年2月）



峠部に事前配備した除雪ドーザによる巡回除雪の実施



高速道路の緊急開口部を活用した迅速な現地到達

国道5号小樽市張碓峠における対策状況

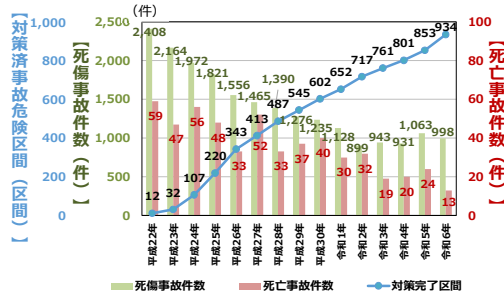
(5) 安全・安心な移動環境の確保

事故多発区間での事故データを用いた分析やビッグデータを活用した潜在的危険区間の分析により、事故の危険性が高い区間を抽出して重点的な対策を実施する「事故ゼロプラン」※を推進します。

また、生活道路における速度抑制や通過交通の進入抑制を図る面的対策の検討において、ETC2.0プローブデータを活用した分析により自治体を支援し、安全・安心な道路空間の整備を推進します。

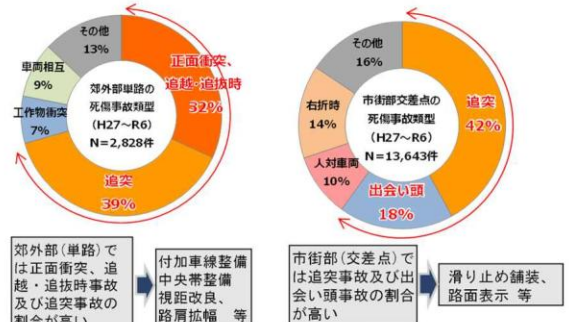
※事故ゼロプラン：交通事故の危険性が高い区間である「事故危険区間」の交通事故対策の取組

■北海道の事故危険区間（国道）における交通事故の発生状況



※北海道開発局調べ

■北海道の国が管理する道路における事故の特徴



※北海道開発局調べ

■対策事例等

○郊外部単路の事故対策：国道44号根室市

<データ分析>

- ・S字カーブ区間で普通車と大型車の速度差が発生
- ・正面衝突・追突事故が多発



<事故要因>

- ・低速車を無理に追い越すため対向車線にはみ出し、正面衝突が発生
- ・追い越し車が無理な車線復帰をするため、追突事故が発生

<対策内容>

付加車線の整備により、低速車と高速車を分離することで、正面衝突・追突事故を低減



○ETC2.0プローブデータを活用したデータ分析

▼対策前後の30km/h超過割合を分析



○市街部交差点の事故対策：国道228号江差町

<データ分析・事故要因>

- ・カーブ区間に複数の道路が交差のため、出会い頭事故が発生
- ・右左折車の急挙動により、後続車からの追突事故が発生



<対策内容>

環状交差点(ラウンドアバウト)の採用による交差箇所の集約により、円滑な道路交通を確保し、出会い頭・追突事故を低減



○生活道路における可搬式ハンプの貸出し

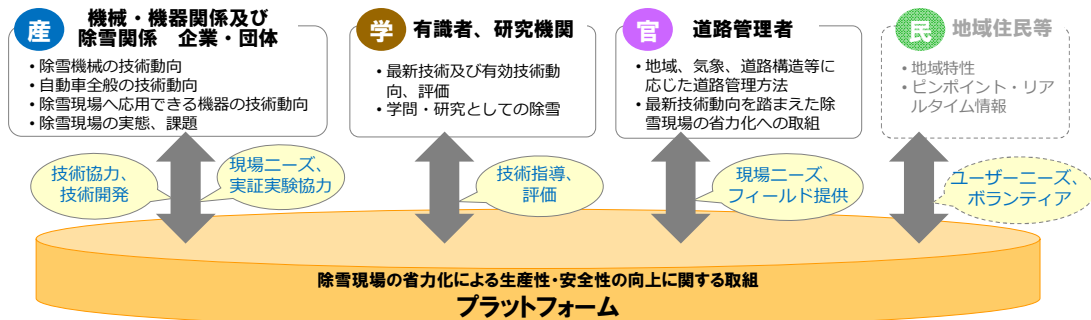


可搬式ハンプ設置状況 (富良野市)

(6) 除雪現場の省力化による生産性・安全性の向上に関する取組 (i-Snow)

人口減少や高齢化が進む中、除雪機械の熟練オペレータの高齢化や担い手不足など、除雪を取り巻く課題の解決のため、準天頂衛星「みちびき」と「高精度3Dマップデータ」を活用した運転支援ガイダンスや、投雪作業自動化の実証実験・実働配備を行っています。機械操作の自動化により、2名体制で行う除雪機械の運転操作が1名体制でも可能となり、人口減少下でも必要な除雪サービスを維持します。

■活動イメージ



■除雪機械 (ロータリ除雪車・除雪トラック・小形除雪車) の作業操作自動化

- 除雪作業の自動化について、令和4年度より実働配備を開始。令和7年度迄に全道で13台を実働配備。
- 準天頂衛星「みちびき」通信電波の不感地帯対策について検討を継続。



除雪現場の省力化イメージ



『除雪装置自動制御付』小形除雪車
令和7年度より実働配備開始

■吹雪時の映像鮮明化技術

- 吹雪等の視界不良時でも約100m先まで視認が可能となり、安全に除雪作業の継続が可能。
- 令和3年度より実働配備を開始、令和7年度迄に全道で364台を実働配備。



■i-Snow 取組 ロードマップ

平成28年度	平成29年度～令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度以降
	【機械操作の自動化 (ロータリ除雪車)】 実証実験<知床峠・狩勝峠> (投雪作業自動化・「みちびき」不感地帯対策等)	実働配備開始 (ロータリ除雪車) 1台 <知床峠>	実働配備拡大 (ロータリ除雪車) 2台 <高規格道路等>	実働配備拡大 (ロータリ除雪車) 4台 <北見・美幌峠等>	実働配備拡大 (ロータリ除雪車) 3台 <目名・日勝峠>
i-Snow 充足	【吹雪時の車両運転支援】H30～ 吹雪時の映像鮮明化技術の調査 ・検討、実証実験 (石狩地区)	実働配備開始 R3<全道各開建> 実働配備拡大 R4～ R3～R6 : 301台 R7 : 63台 計364台			
			【自動操作対象 機械拡大検討】 除雪トラック検討	実働配備開始 (除雪トラック) 1台 <深川・留萌道>	実働配備拡大 (除雪トラック) 1台 <目名峠>
				【自動操作対象 機械拡大検討】 小形除雪車検討	実働配備開始 (小形除雪車) 1台 <国道337号 花咲>

【目指す姿】

- 機械操作・運転の自動化により、人口減少や高齢化が進む中でも、冬期道路交通の確保に不可欠な除雪サービスを維持
- 吹雪時の映像鮮明化技術の活用により、除雪作業の継続が可能となり、天候回復後速やかに通行再開が可能となることで、通行止め時間を短縮

(7) 「道の駅」の防災拠点化

近年、激甚化・頻発化する自然災害に備え、各地で広域的な復旧・復興活動の拠点整備が進められており、地域防災計画に位置付けられた「道の駅」において、地域の防災力向上に資する防災拠点の整備や機能向上を図っています。

令和8年3月末時点では、地域防災計画等で、広域的な防災拠点に位置付けられている道の駅のうち、7駅を「防災道の駅」に選定しています。また、広域災害応急対策の拠点となる防災機能を有する「道の駅」の駐車場を「防災拠点自動車駐車場」として指定しており、令和8年3月末時点で北海道内では36駅を指定しています。

「防災道の駅」をはじめとする地域防災計画に位置付けられた「道の駅」においては、更なる防災機能強化に向けて、BCPに基づく防災訓練等について重点的に支援していきます。



「防災道の駅」選定箇所



関係機関と連携した防災訓練
道の駅「厚岸グルメパーク」



道の駅「さるふつ公園」



道の駅「阿寒丹頂の里」



道の駅「おとふけ」

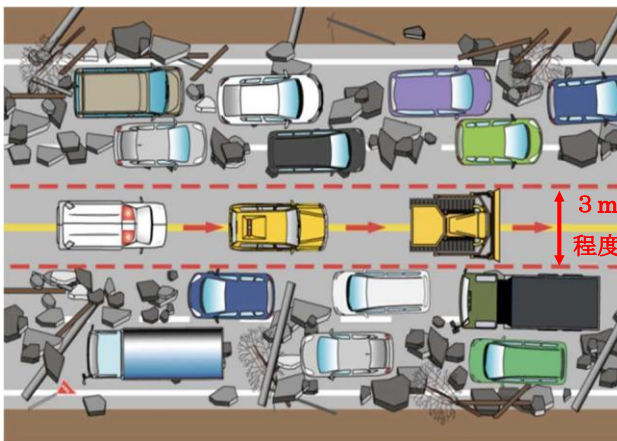


「防災拠点自動車駐車場」の指定にともなう災害時の制限

(8) 北海道道路啓開計画の策定

令和6年1月に発生した能登半島地震では、緊急輸送を確保するための道路啓開の重要性が改めて認識されたところです。これを踏まえ、令和7年4月に道路法が改正され、道路啓開計画が法定化されました。

北海道においては、令和7年8月に関係機関で構成する北海道道路啓開計画協議会を設置しており、道路啓開計画の策定に向けて協議を進めています。



▲道路啓開のイメージ



▲道路啓開作業状況

5 地球温暖化対策を先導するゼロカーボン北海道の実現

(1) 再生可能エネルギーの導入拡大、脱炭素化等の取組

地球温暖化防止が重要な政策課題となっている中で、北海道の豊かな自然や地域資源を活かしてグリーン社会の実現を主導していくことが求められています。ゼロカーボン北海道の実現に向けた取組を推進し、持続可能な脱炭素社会の形成を図ります。

<「道の駅」を活用した次世代自動車普及及び促進の取組>

○令和4年4月に北海道開発局・北海道経済産業局・北海道地方環境事務所・北海道によるワーキングチームを設置し、道の駅設置者である市町村や道の駅管理者と連携し、「道の駅」に急速EV充電施設の設置を目指します。(R8.3時点：69/128 54%)



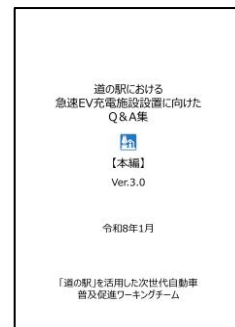
道の駅「石狩あいりーど厚田」での充電状況



急速EV充電施設の展示及び普及促進取組紹介の様子
(土木の日パネル展2025)
(令和7年11月16日～17日開催)



令和7年度ワーキングチーム開催状況
(令和8年1月14日開催)



Q&A集の作成

<道路照明灯のLED化>

○道路の日常管理における電力使用量のうち、道路照明が約7割を占めています。このため、従来の照明よりも消費電力を削減できるLEDへの転換を促進し、CO₂排出量を削減します。



<道路ネットワーク整備>

CO₂削減に大きく寄与する道路ネットワークの整備、渋滞対策等を推進します。

令和3年度から令和7年度までの直轄国道の開通により、CO₂排出量が約6万t/年*削減。

※北海道開発局調べ



日高自動車道（日高厚賀 IC～新冠 IC）



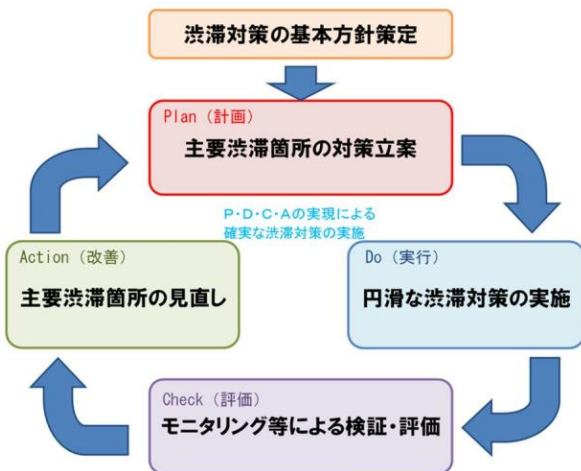
道東自動車道（阿寒 IC～釧路西 IC）

<効率的・効果的な渋滞対策>

北海道渋滞対策協議会において特定されている主要渋滞箇所（道内全128箇所）の解消に向けて、関係機関と連携し、渋滞要因の分析、ソフト・ハードを含めた渋滞対策の検討・実施・評価等を推進します。

（令和7年度末現在 解除候補箇所：15箇所、対策中：40箇所、検討中：73箇所）

【渋滞対策の基本方針】



【対策事例】

観光期、休日に渋滞が発生していた交差点において、4車線拡幅及び右折車線新設を実施したことで、旅行速度が改善し、渋滞が発生していないことを確認



対策事例箇所図

（一般国道230号×道道小樽定山溪線）

【渋滞対策の流れ】



【対策結果】



対策前

対策後

一般国道230号×道道小樽定山溪線
（札幌→喜茂別方向）

<北海道インフラゼロカーボン試行工事>

○工事成績でのインセンティブを付与することで、道内建設業全体におけるカーボンニュートラルの意識醸成を図ります。

〈想定される取組〉

- ・電気加熱スクリード仕様アスファルトフィニッシャの活用
- ・アスファルト舗装合材運搬時の保温資材の活用

〈北海道開発局取組実施の評価〉

- ・CO₂削減の取組を確認できた場合、工事成績におけるインセンティブを付与



北海道インフラゼロカーボン試行工事



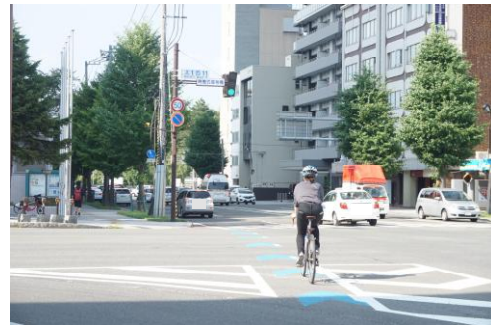
電気加熱スクリード仕様
アスファルトフィニッシャの活用



アスファルト舗装合材運搬時の保温資材の活用

<自転車活用の推進>

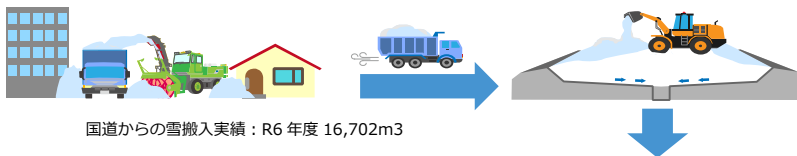
○自転車通行空間の整備やシェアサイクルの普及促進等、自転車活用の推進を図ることにより、交通における自動車への依存を低減し、CO₂排出量を削減します。



自転車の通行位置を示す矢羽根型路面表示の設置例
一般国道 230 号（札幌市）

<道路排雪の冷熱エネルギーとしての利活用>

○冬に国道の排雪を集積しておき、夏に周辺施設（糶貯蔵施設、養護老人ホーム等）の冷熱エネルギーとして利活用を推進します。



▲糶貯蔵施設



▲沼田町養護老人ホーム

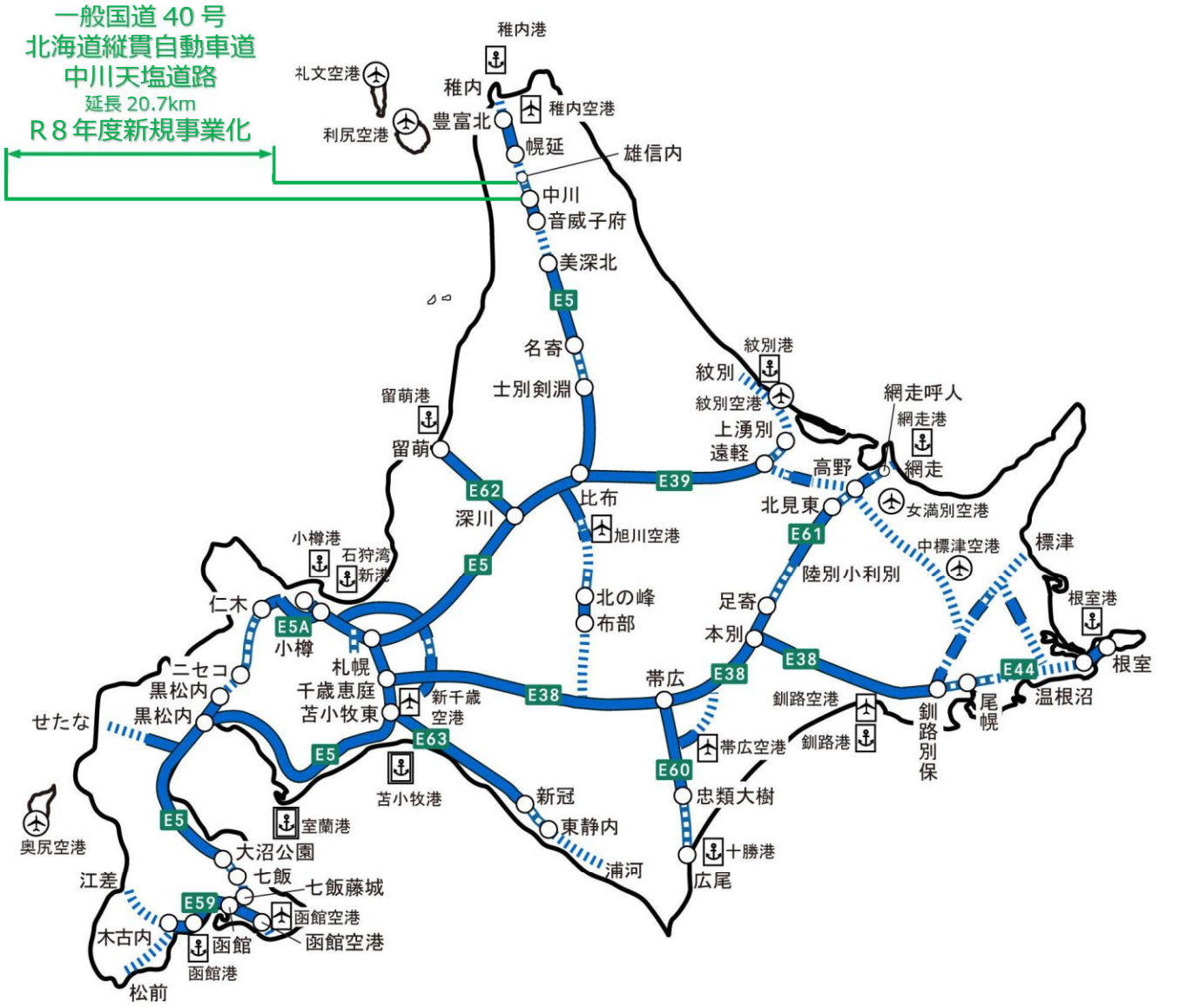


▲沼田町生涯学習総合センター

沼田式雪山センターの事例

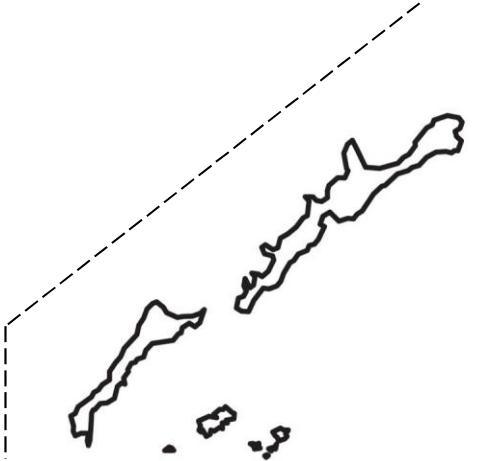
【 参 考 】

道路ネットワーク図



凡 例	
高規格道路	供 用 中
——	事 業 中
.....	調 査 中

凡 例		
空 港	国 管 理	⊗
	特定地方管理	⊕
	地方管理	⊙
港 湾	国際拠点	⊚
	重 要	⊚



1. 概要

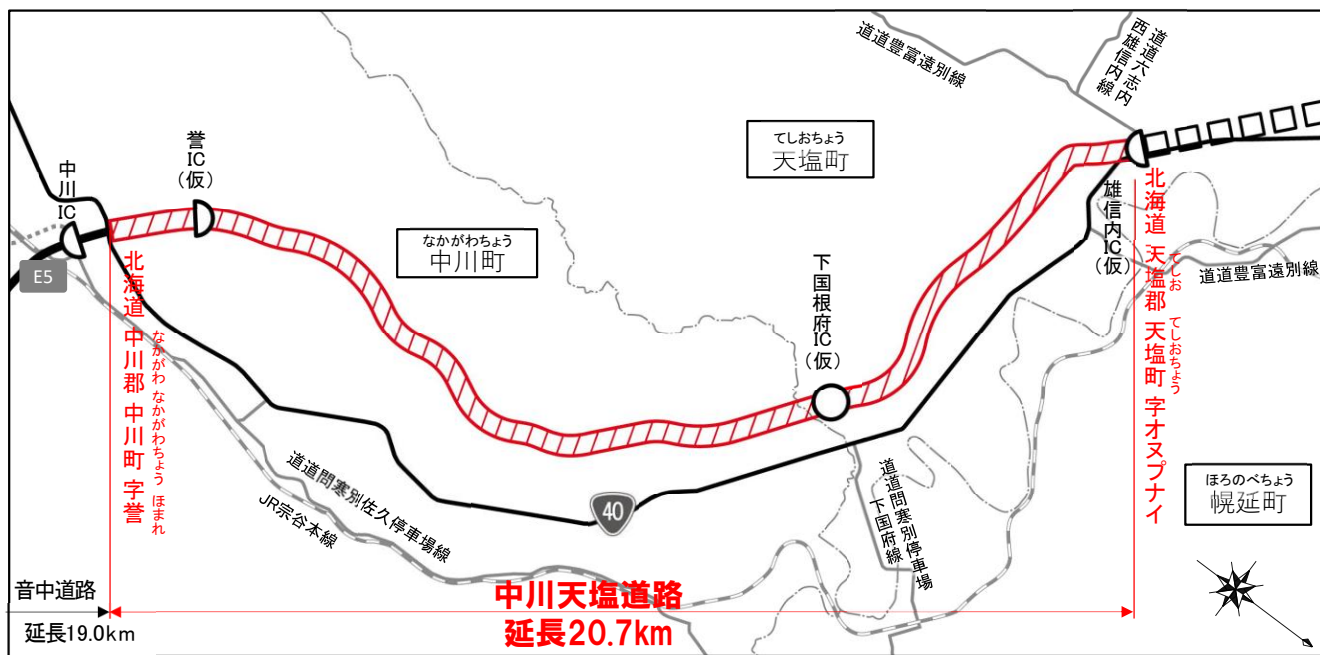
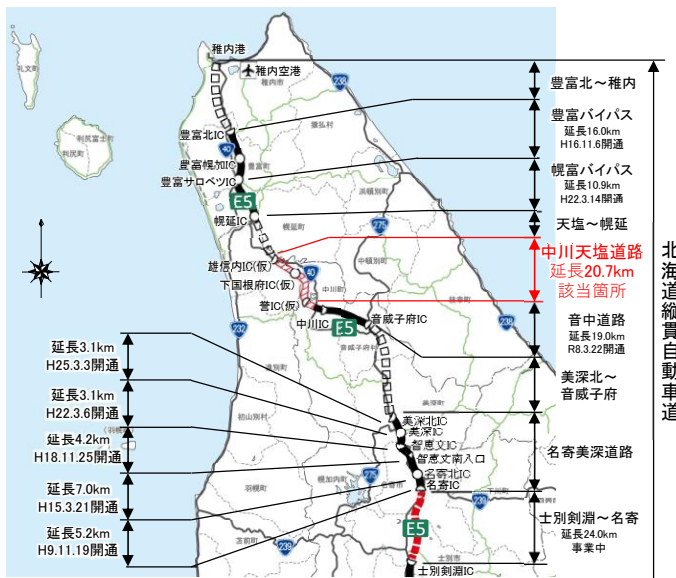
なかがわてしお
一般国道40号中川天塩道路は、洪水浸水や暴風雪などの災害発生時における住民の避難や復旧活動を支える「命の道」として機能する信頼性の高い道路ネットワークを形成し、物流拠点、空港、港湾、高次救急医療施設等へのアクセス向上により、道北地域における産業振興や救急搬送などの医療活動を支援すること等を目的とした延長20.7kmの一般国道のバイパス事業です。

2. 計画内容

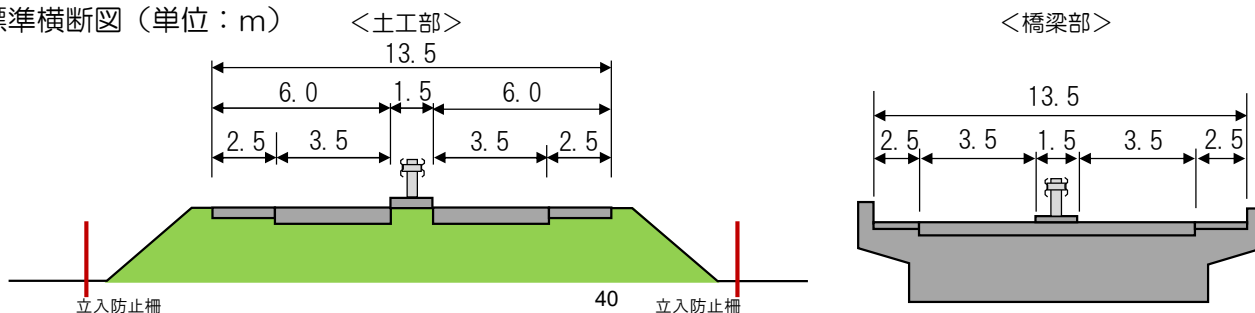
なかがわ なかがわちよう ほまれ てしお てしおちよう
箇所名：北海道中川郡中川町字誉～天塩郡天塩町字オヌプナイ
延長：L=20.7km



凡 例	
	開 通 済
	事 業 中
	調 査 中
	該 当 箇 所



■標準横断面図（単位：m）



令和8年度の道路調査の見通しについて(ネットワーク)

個別路線の事業化に向けて、ルート・構造検討に係る調査等を進めます。
主な調査箇所は、下記の通りです。

【主な調査箇所】

概略ルート・構造の検討(計画段階評価を進めるための調査)

北海道縦貫自動車道

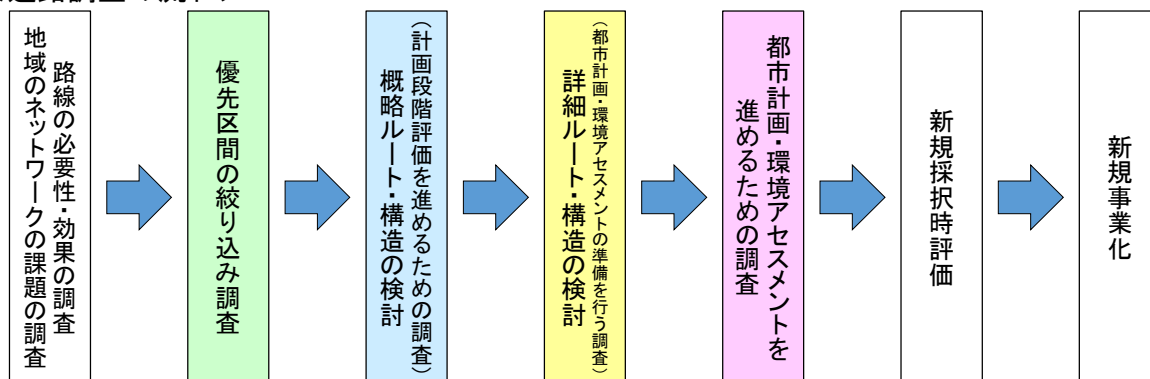
旭川十勝道路

ななえふじしろ 七飯藤城ななえ～七飯
かみふらの 上富良野なかふらの～中富良野

その他の未整備区間についても、当該地域の交通状況、社会経済状況や道路網の課題等を調査し、優先区間の検討や道路網の中での必要性・整備効果の整理等を進めます。

また、渋滞や交通安全など、地域における道路交通に関する課題、サービスレベルを把握するためのデータ収集・分析等を行うとともに、路線の必要性、緊急性、妥当性に関する基礎的な調査を実施します。

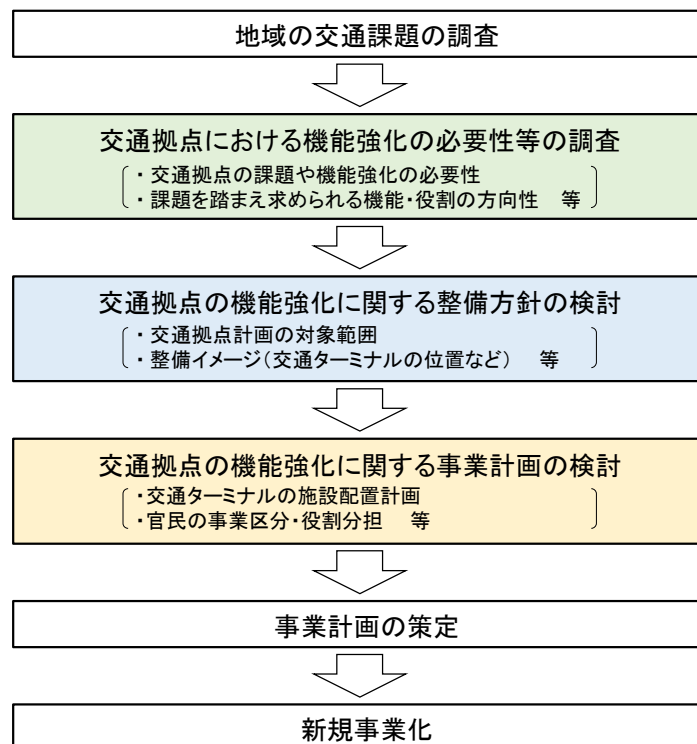
<道路調査の流れ>



令和8年度の道路調査の見通しについて（交通拠点）

地域の交通課題を把握するためのデータ収集・分析等を行うとともに、道路ネットワークにおける拠点の機能強化の必要性、緊急性、妥当性に関する基礎的な調査を実施します。

<交通拠点の調査の流れ>

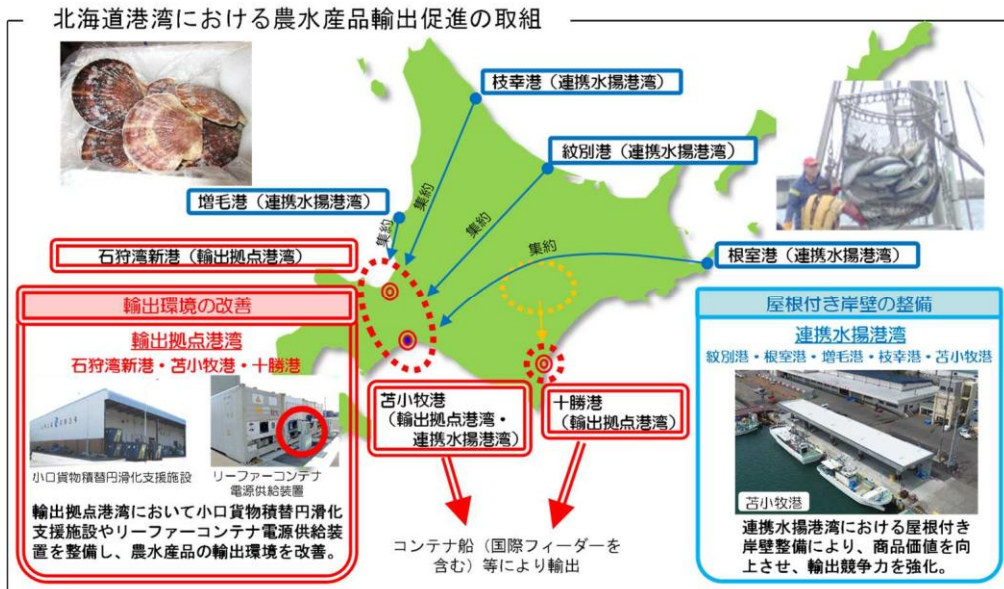


3. 港湾整備事業

1 食料安全保障を支える農林水産業・食関連産業の持続的な発展

国内外のマーケットに対応したバリューチェーンの構築

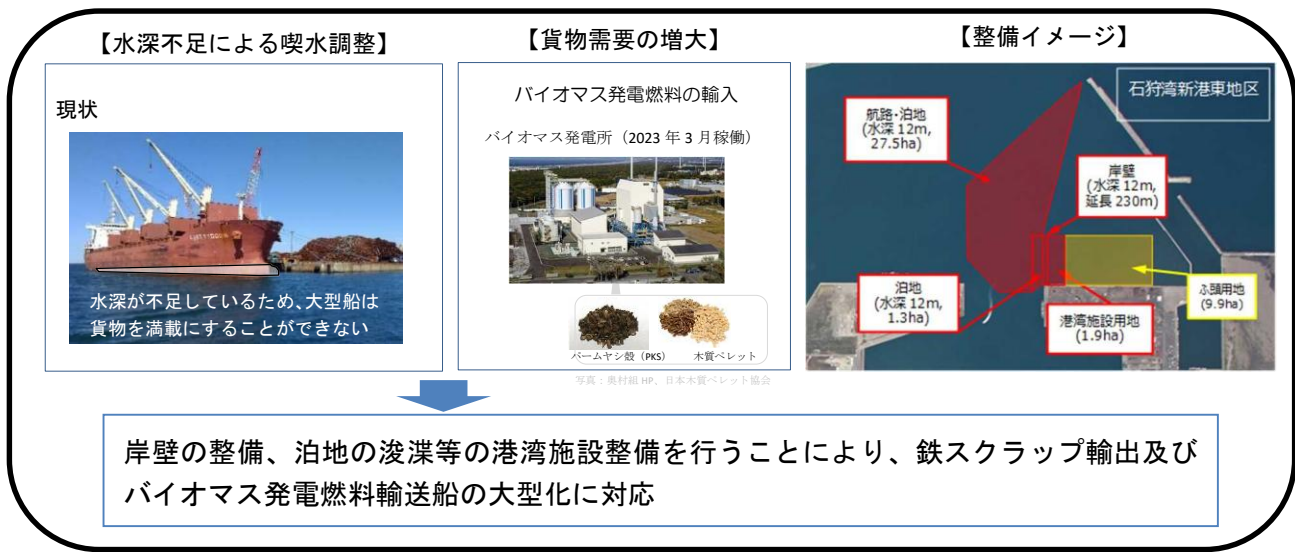
グローバル市場の獲得による農水産品の輸出拡大に対応するため、農水産品の輸出促進に取り組む港湾において、輸出競争力強化に資する屋根付き岸壁等の整備を推進します。



2 地球温暖化対策を先導するゼロカーボン北海道の実現

エネルギー基地の形成

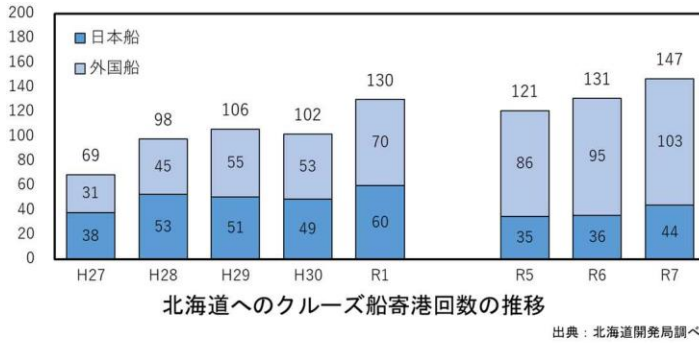
バイオマス燃料の輸入等の再生可能エネルギー導入に寄与するため、係留施設や外郭施設等の整備を推進します。



3 観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくり

多様な旅行者の地方部への誘客に向けた安全・安心な受入環境整備

クルーズ船の大型化に対応するため、既存岸壁を活用した受入環境の整備を推進します。

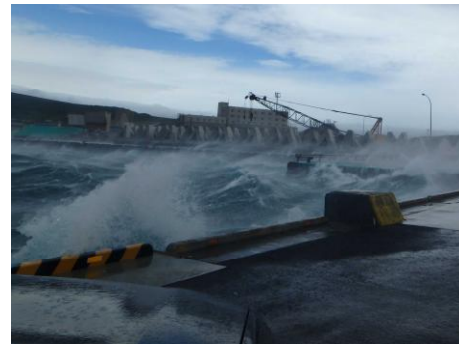


既設岸壁を活用した受入環境整備（小樽港）

4 北方領土隣接地域及び国境周辺地域の振興

国境周辺地域の振興

離島地域における本土への安定的なアクセスの確保に対応するため、係留施設や外郭施設の整備を推進します。



荒天時の越波等による港内擾乱状況（沓形港）

5 生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくり

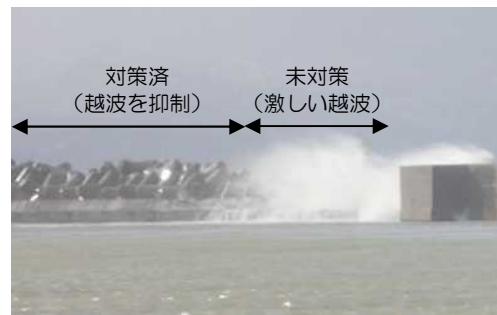
(1) 気候変動に伴い激甚化する水災害に対する北海道の地域特性を踏まえた流域治水の推進

(2) 日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震等の大規模災害に対する生産・社会基盤の強靱化

気候変動の影響により激甚化・頻発化する風水害や切迫する地震災害等に対応するため、港湾施設の耐震化、高潮・高波対策等を推進します。



対策事例（防波堤の高上げ）



消波ブロック高上げによる越波抑制効果例

令和8年度（継続）

苫小牧港東港区 浜厚真地区 複合一貫輸送ターミナル整備事業

（直轄）

1. 概要

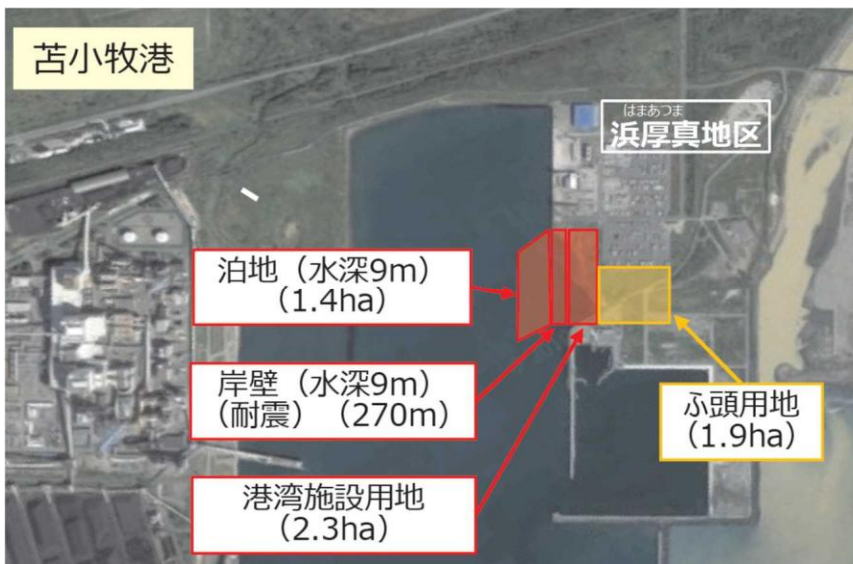
苫小牧港東港区浜厚真地区において、不足するバース整備を行うことにより、トラックドライバーの労働規制に応じた効率的なフェリーのダイヤ設定等を可能とするほか、災害にも強い国内輸送ネットワーク構築に対応するため、複合一貫輸送ターミナルの整備を推進します。

2. 計画内容

令和8年度整備施設：岸壁(水深9m)(耐震)、港湾施設用地

全体事業費：219億円（うち直轄 188億円）

事業予定期間：令和4年度 ～ 令和10年度



【北海道における農水産業の振興及び農水産品の安定的な国内供給】

【バース不足による非効率な輸送例】



【バース整備による効率的な輸送例】



岸壁、港湾施設用地等の港湾施設整備を行うことにより、トラックドライバーの労働規制に応じた効率的なフェリーのダイヤ設定等を可能とすることで、北海道産の農水産品の効率的な移出が可能となり、北海道における農水産業の振興、我が国の農水産品の生産基盤の強化と安定的な国内供給の確保に対応

令和8年度（継続）

農水産品輸出促進基盤の整備

（直轄）

1. 概要

グローバル市場の獲得による農水産品の輸出拡大に対応するため、地域の関係者が連携して農水産品の輸出促進に取り組む港湾において、輸出競争力強化に資する屋根付き岸壁の整備を推進します。

2. 計画内容

枝幸港

令和8年度整備施設：物揚場(水深3.5m)(西)(改良)

事業予定期間：平成29年度～令和12年度（令和4年度から一部供用開始）

※苫小牧港、紋別港、根室港、増毛港は供用済み



根室港 屋根付き岸壁
（令和7年9月供用）

令和8年度（完了）

既存ストックを活用したクルーズ船の受入環境の整備 （予防保全事業）

（直轄）

1. 概 要

クルーズ船の大型化に対応するため、室蘭港において、既存岸壁を活用した受入環境の整備を推進します。

2. 計画内容

室蘭港

令和8年度整備施設：岸壁(-11m) (改良)

事業予定期間：令和元年度 ～ 令和8年度



室蘭港クルーズ船接岸状況（令和6年10月）
（暫定供用中）

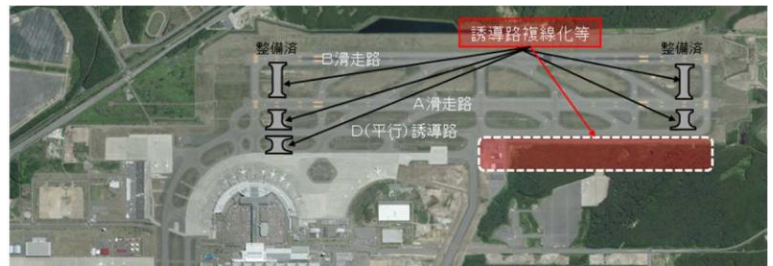
4. 空港整備事業

1 観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくり

国内外の旅行者の受入環境整備

新千歳空港では、除雪作業や航空機のトラブル等による滑走路の一時的な占有に起因する遅延や欠航が課題となっていることから、誘導路の複線化等を推進し、航空機の安定運航を図り、国内外旅行者の受入環境の整備に取り組めます。

[新千歳空港]



整備イメージ

2 生活空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくり

(1) 耐震対策

大規模地震災害時における緊急物資等の輸送拠点としての機能確保、航空ネットワーク及び背後圏の経済活動を維持するため、滑走路等における耐震対策を推進します。

[新千歳空港、函館空港、釧路空港]



滑走路の耐震対策

(2) 浸水対策

近年の気候変化や長期的な気候変動を踏まえ、台風や豪雨に備えた浸水対策を推進します。

[函館空港]



浸水対策

空港の受入機能強化（誘導路複線化）

（直轄）

1. 概要

新千歳空港では、冬期における航空機の欠航や遅延等が課題となっており、航空機や除雪車両の混雑を緩和するため、新たな誘導路を整備し、誘導路の複線化を図ります。

2. 計画内容

箇所名：新千歳空港

整備内容：誘導路複線化

事業予定期間：平成30年度～



整備イメージ

- ① 末端取付誘導路（北側・南側）
（除雪車両の待機解消による滑走路占有の回避等）
- ② 平行誘導路
（駐機場へ引き返す航空機による滑走路占有の回避等）

令和8年度（継続）

空港の防災・減災対策（浸水対策）

（直轄）

1. 概要

近年の気候変化や長期的な気候変動を踏まえ、台風や豪雨に備えた浸水対策を推進します。

2. 計画内容

箇所名：函館空港

整備内容：浸水対策

事業予定期間：令和2年度～



浸水対策(函館空港)

5. 農業農村整備事業

1 食料安全保障を支える農林水産業・食関連産業の持続的な発展

(1) 農地の大区画化等の整備

農地の大区画化・排水改良等の基盤整備を推進するとともに、担い手への農地集積・集約化を進めます。また、基盤整備を契機としたスマート農業の導入やコントラクターをはじめとする外部支援組織の活用を図ることを通じて農業生産の省力化・低コスト化や収益力の向上を促進します。

農地の大区画化等の基盤整備		スマート農業の導入	
 <p>水田の整備</p>	<p>大区画化と併せてターン農道や用排水路のバイブライン化など、スマート農機の走行性の向上を図る整備を実施</p> <p>【岩見沢北村地区の例】</p>	 <p>高精度な自動操舵トラクター等の運用を促進し、営農作業を効率化</p> <p>【今金北・今金南地区の例】</p>	
 <p>畑の整備</p>	 <p>草地の整備</p>	外部支援組織の戦略的な活用	
<p>大区画化と併せて傾斜改良等を実施し、麦、大豆、野菜類等の効率的生産が可能</p> <p>【二セコ地区の例】</p>	<p>大型機械での適期収穫作業が可能となり、飼料作物が増産生産が可能</p> <p>【雄武丘陵地区の例】</p>	 <p>牧草収穫作業や飼料調整を外部支援組織に委託し、飼養管理への更なる注力や経営規模の拡大が可能</p> <p>【阿寒地区の例】</p>	

(2) 畑地かんがい施設等の整備

少雨時であっても高品質で安定した農業生産を支え、農業の競争力強化が図られるよう、畑地かんがい施設の整備を推進します。また、酪農地帯にあっては、家畜排せつ物とかんがい用水を混合することで、家畜排せつ物の効率的な農地還元を可能とする肥培かんがい施設の整備を推進します。

● 国営かんがい排水事業「北見二期地区」の例



未整備区域において干ばつが発生



施設整備により、適期適切なかん水を実現



安定生産・品質が向上

● 国営環境保全型かんがい排水事業「根室地区」の例



肥培施設の整備
(配水調整池)



農地へのスラリー^(※) 散布

※スラリー：家畜排せつ物にかんがい用水を混合した有機質肥料

(3) 基幹的農業水利施設の保全・更新

基幹的な農業水利施設の計画的な更新・長寿命化・耐震化等を行い、施設のライフサイクルコストの低減と農業生産力の維持・確保を図ります。

●国営かんがい排水事業「北海地区」の例



用水路の改修工事



更新整備された用水路

2 生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくり

流域治水対策の推進

道内の各水系では、気候変動による水害リスクの増大に備え、流域全体のあらゆる関係者の協働により「流域治水」に取り組みされており、水系ごとに策定される「流域治水プロジェクト」には、農業用ダムの事前放流、田んぼダムによる水田貯留機能向上など、農地や農業水利施設の多面的機能を活かした取組も盛り込まれています。

農業農村整備事業においては、流域治水の推進に向けて、市街地・集落を含む農村地域の排水対策のための排水施設の整備、事前放流等に取り組むダムの整備、田んぼダムに取り組む地域における農地の整備を推進します。

●流域治水対策の例



整備された排水路
(お茶の水地区)



田んぼダムに取り組む地域における農地の整備
(旭東東神楽地区)

1. 概要

用水路及びダム附帯施設の改修と水需要の変化に対応した用水再編を行うとともに、ダム附帯施設の耐震化を一体的に行うことにより、農業用水の安定供給及び維持管理の軽減を図り、農業生産性の向上及び農業経営の安定を図ります。

2. 計画内容

関係市町村：旭川市

受益面積：771ha

主要工事：ダム（改修）1箇所、用水路（改修）7.0km

【地区の課題】

- 用水施設の経年的な劣化により、施設の維持管理に要する費用と労力が増加。
- 営農の変化に伴い水需要が変化しており、近年の営農に対応した用水手当が必要。
- ダム附帯施設は必要な耐震性を有しておらず、大規模地震により被害が発生するおそれ。



用水路の破損状況



用水路の漏水状況

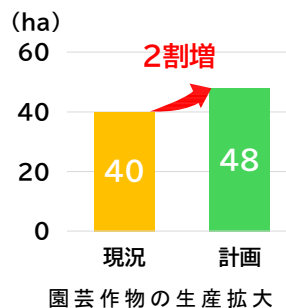


耐震化が必要な取水塔

【事業実施により期待される効果】

- 用水施設の改修により、農業用水の安定供給と維持管理に要する費用と労力の軽減。

- 近年の営農に対応した用水手当及び農業用水の安定供給により、園芸作物の生産拡大、農業所得の向上。



代表的な園芸作物
（かぼちゃ）

1. 概要

区画整理を行い、農地の大区画化など生産基盤を整備するとともに、土地利用の整序化、担い手への農地の利用集積を行い、農業生産性の向上及び農業経営の安定を図ります。

2. 計画内容

関係市町村：富良野市、南富良野町

受益面積：1,916ha

主要工事：区画整理1,916ha



【地区の課題】

○ほ場の区画が狭小で排水不良が生じているとともに、一部のほ場では石礫が多いことに加え、田と畑が錯綜しているため、作業効率が悪く、スマート農機や大型機械による効率的な営農作業が困難な状況。

○このため、生産性が低く、効率的かつ安定的な農業経営のための農地の利用集積が進んでいない。



狭小区画、田畑の錯綜状況
(紫：田 0.3~0.5ha、黄：畑 1.0ha)



排水不良なほ場

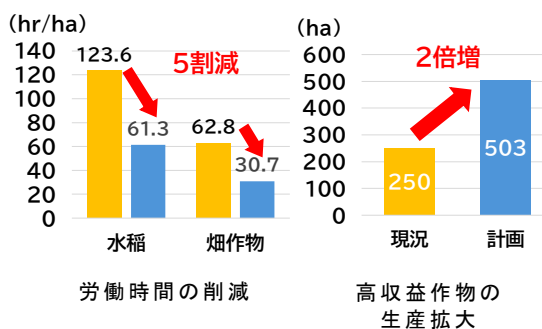


石礫の除去状況

【事業実施により期待される効果】

○土地利用を整序化し、労働生産性を向上。

○ほ場の大区画化及び排水改良を行い、スマート農業の導入や農作業請負組織の利用拡大による労働時間の削減、高収益作物の生産拡大。



代表的な高収益作物
（ばれいしょ）

令和8年度（継続）

おいなおし

追直地区 特定漁港漁場整備事業

（直轄）

1. 概要

追直漁港は、北海道南西部に位置し、沖合底びき網漁業やサケ定置網、刺網等の沿岸漁業等の流通拠点であるとともに、港内静穏域を活用したホタテガイ養殖等のつくり育てる漁業の支援基地として、重要な役割を担っています。

当漁港では、陸揚げから出荷作業が野天で行われており、鳥糞などの異物混入や直射日光などによる品質低下、港内への進入波による漁船の動揺や損傷被害の発生が課題となっています。また、大規模災害発生後において、漁業活動が長期間休止となった場合、水産物の安定供給だけでなく、地域経済に大きな影響を与えることが懸念されています。

このため、衛生管理対策の強化と発災後における水産物の早期再開を可能とする耐震性能を有した屋根付き岸壁を整備するほか、防波堤からの越波や港口からの進入波を低減し、安全に係留できる岸壁を確保するための防波堤を整備し、水産物流機能の向上と漁業活動の安全性確保を図ります。

2. 計画内容

計画箇所：追直地区（室蘭市）

主要計画施設：外防波堤150m、東防波堤(改良)192m、-5.5m岸壁(改良)380m 等

全体事業費：約99億円

事業予定期間：平成30年度～令和9年度



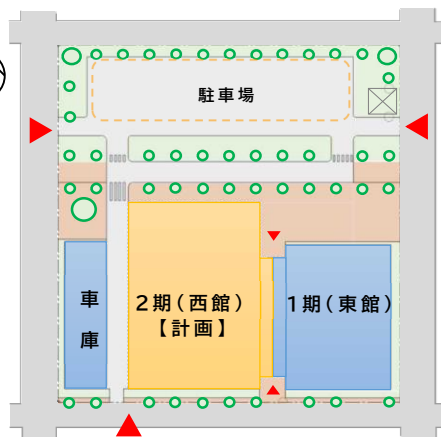
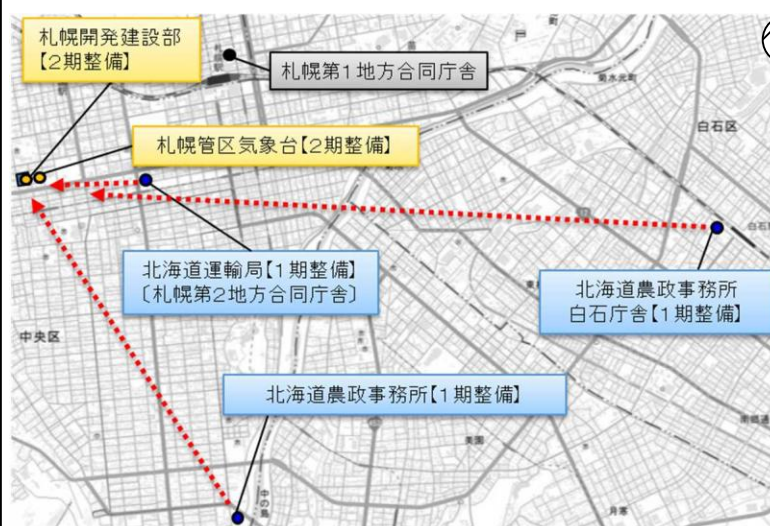
7. 官庁営繕事業

1 防災拠点となる官庁施設の防災機能の強化等

(1) 地域と連携した防災拠点等となる官庁施設の整備の推進

防災拠点等となる官庁施設の整備を推進し、災害に強い地域づくりを支援するとともに新たなまちづくり空間や、にぎわいの創出等により地域の活性化に積極的に貢献します。

■札幌第4地方合同庁舎整備事業



構内配置のイメージ



完成した1期棟(東館)

耐震性能の不足や老朽化が進む札幌市内の各施設の課題を解消するため、4官署、5施設を集約化し、札幌第4地方合同庁舎として整備を進めています。

これにより、利用者の安全性・利便性を確保するとともに、防災拠点としての機能を一層強化し、地域の防災機能向上に寄与することを目指しています。

(2) 災害応急活動に必要な官庁施設の電力確保等の推進

災害時の応急活動に支障が出ないように、老朽化した自家発電設備や受変電設備の改修など電力確保対策を進めるとともに、建物の構造性能や設備機能を維持して防災拠点としての機能を確保し、行政機能の早期回復につなげるため、津波等の浸水対策を総合的かつ効果的に実施します。



庁舎受変電設備の改修(電力確保)



津波浸水対策として、設備棟を増築し、既存庁舎の地下階にある電気室、自家発電室の機能を移設(稚内地方合同庁舎)

2 官庁施設の老朽化対策等

(1) 危険箇所の解消等の老朽化対策による長寿命化の推進

既存官庁施設をより長く安全に利用し、トータルコストの縮減等を実現するため、躯体の保護、防災設備、ライフライン設備の計画的な改修を実施します。



タイル落下による事故発生のおそれがあり、外壁改修が必要（整備前の状況）



排水管の腐食により漏水が発生し配管改修が必要（整備前の状況）

3 脱炭素社会の実現に向けた官庁施設の整備の推進

(1) 官庁施設における木材利用の推進

「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律」（都市（まち）の木造化推進法）に基づき、官庁営繕事業において木材を利用した官庁施設の整備を積極的に推進します。



内装等の木質化を図った施設の例（札幌第4 地方合同庁舎）

(2) 官庁施設における ZEB 等の推進

官庁施設のライフサイクルを通じた環境負荷低減の推進と、政府実行計画*1に基づき各府省庁が行う温室効果ガス排出削減への技術的支援を行います。

*1 政府がその事務及び事業に関し温室効果ガスの排出の削減等のため実行すべき措置について定める計画（R3.10.22 閣議決定）



ZEB Oriented を目標に計画（名寄税務署 完成イメージ）

(参考) アイヌ文化の振興

アイヌ文化の復興・創造等の拠点として造られた「民族共生象徴空間(愛称ウポポイ※)」では、国内外から多くの人々が訪れ、アイヌ文化の素晴らしさを体験し、民族共生の理念に共感してもらえるよう魅力的なプログラムやイベント等の充実、発信に取り組んでいます。

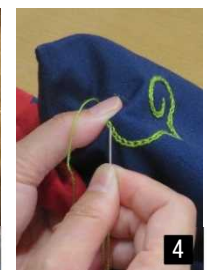
北海道開発局としても、関係機関と協力し、誘客促進に向けたPR活動等を進めます。

※「ウポポイ」はアイヌ語で「(おおぜいで) 歌うこと」を意味します。

ウポポイ全景



プログラムの一例



- 1 伝統芸能上演
- 2 弓矢体験
- 3 衣裳体験
- 4 刺繍体験
- 5 ポロトコタンの夜
- 6 イルミネーション

令和7年度の主なイベント

<p>4/26~5/6 ゴールデンウィークイベント ゴールデンウィークに特別プログラムなどを実施</p>	<p>7/12~13 ウポポイ祭 「芸能と食」をテーマに、民謡工差追分と初コラボ</p>	<p>11/1~3 ウポポイ無料開放DAY 開業5周年を記念して、3日間開催</p>	<p>2/7~14 ウポポイ文化交流フェスティバル 先住民族文化の交流がテーマの冬イベント</p>
--	--	--	---